※キャラクター

1　ルウシィ
2　クロエ
3　サラ
4　アリア（モブ）
5　クレメント

-共通台本-

// ▼【0001プロローグ】

// 【収録メモ】モノローグここから

cha0001 ルゥシィ

「（小さい頃から私は、魔法を見るのが好きだった。魔法を見たくて、何度も両親にねだってはいつも困らせていた）」

cha0002 ルゥシィ

「（いつしか自分も使いたい。両親のようにみんなの役に立つ魔法を、この手で使いたい。進む道は自ずと決まっていった）」

cha0003 ルゥシィ

「（いくら勉強をしても、魔法の新たな可能性に触れるたび、より便利な魔法を、より効果的な魔法をと興味が尽きることはなかった）」

cha0004 ルゥシィ

「（そんな私が魔法学校を卒業し、魔法の研究を始めてから数年。この世界に危機が訪れた……。ある日を境に光と闇の均衡によって抑えられていた闇の軍勢が勢いを増したのだ）」

cha0005 ルゥシィ

「（それは魔王の再臨に他ならなかった。勢いを増す魔王軍に対抗すべく、国中から戦いを得意とするものが集められ、討伐隊が編成された」

cha0006 ルゥシィ

「（私もまた研究の成果を見いだされ、私は平穏と平和を守る為の戦いへと、身を投じた）」

cha0007 ルゥシィ

「（一撃必殺の剣士のクレメント、魔法剣で敵を翻弄する勇者。二人との出会いは、その後の私達の運命を大きく変えた」

cha0008 ルゥシィ

「（二人と共に幾多の戦いに勝利し前線を押し上げ、魔王の元へとたどり着くまでにさほど多くの時間はかからなかった）」

cha0009 ルゥシィ

「（そして、ついに……）」

//【収録メモ】モノローグここまで

cha0010 ルゥシィ

「はぁ……、はぁ……。勇者もクレメントもいい位置で魔王の攻撃を捌いてくれている。注意が逸れている今こそ、決定打を、私が……っ！」

cha0011 ルゥシィ

「万物の母なる大地よ……その内に秘めし力を我が前へと顕現させんが為の道筋を示せ。そして大地に眠りし全てを焼き尽くす灼熱の奔流よ。示された標に従い母なる大地を汚す悪を滅ぼせっ！」

cha0012 ルゥシィ

「ラーヴァ・エラプション！」

//【効果音】どごおおおん！という爆発音

//【収録メモ】間

cha0013 ルゥシィ

「ふふっ……」

cha0001 クレメント

「ん？　どうした急に笑いだして……村に着くのがそんなに楽しみか？」

cha0014 ルゥシィ

「いや、すまない。ふと魔王討伐の時を思い出してな」

cha0002 クレメント

「……俺たちの活躍に思い出し笑いする所なんてないはずだが」

cha0015 ルゥシィ

「活躍は活躍だが、魔王を倒した私の魔法が勇者とクレメントのお尻も一緒に灼いてしまったアレは忘れられんよ。くふふ、締まらないったら無い。いや、悪気はなかったんだが、しかし……くくっ……」

cha0003 クレメント

「替えの服が用意できなくて、危うく尻丸出しで凱旋パレードをする羽目になりそうだったのは忘れてないぞ」

cha0016 ルゥシィ

「私達以外、誰も知らない話だ。ふむ……それからもう半年か。減ってはきているがいまだに闇の軍勢との戦いは続いていて、今回の件もその類のようだ。……クレメントは依頼の内容を覚えているかい？」

cha0004 クレメント

「依頼……アレだろ。洞窟に湧いた魔物を撃滅したらいいんだよな？」

cha0017 ルゥシィ

「……まあ、間違ってはいないが、どうしていつも君はこうも短絡的なのか」

cha0005 クレメント

「ルゥシィがややこしいんだ。目的は簡潔に、道のりは一直線、だろう」

cha0018 ルゥシィ

「全く君というやつは……これでいて君が告白の後、私が振り向くまで待てたのだから不思議でならない……」

cha0006 クレメント

「ルゥシィを待つのが最短一直線だったはずだが、違ったのか？」

cha0019 ルゥシィ

「ちっ、違いは……しないが……。コホン……まあ、いいや。いつも通り、細かいことは私が引き受けて、君は君らしくその力を存分に振るってくれ」

cha0007 クレメント

「ああ、腕がなるな！」

cha0020 ルゥシィ

「気合は良いけど、まずは話を聞かないと」

＝【収録メモ】間

cha0001 サラ

「ようこそお越しくださいましたわ。私がこの村の村長を務めていますサラ・デュボアと申しますの」

cha0021 ルゥシィ

「私はルゥシィ・マルソー。こっちは私の相方の……」

cha0008 クレメント

「クレメント・ロベールだ。よろしく頼む」

cha0002 サラ

「村の為にお越し頂きありがとうございます。洞窟を深くまで攻略できる冒険者さんが居なくて困っていましたの。魔王を倒したお二人なら、きっと解決してくださると信じていますわ」

cha0022 ルゥシィ

「そうなるように努力しよう。ここまで村の様子は平和そうだったが、何が起こっているんだ？」

cha0003 サラ

「はい。まず一人冒険者さんを紹介させて下さいませ。クロエさん、お願いしますわ」

cha0023 ルゥシィ

「冒険者……？」

cha0004 サラ

「こちらは壊滅した冒険者さん達の一人、聖職者のクロエさんですの」

cha0001 クロエ

「神官を務めております、クロエ・ルブランです。ルウシィさん、クレメントさん、魔王を打倒したお二人にお会いできて光栄です。特にルウシィさん、貴女の魔法は誰よりも強く美しくて、私の憧れなんです……っ！」

cha0024 ルウシィ

「そんなに良いものじゃないが、せめて君の憧れを裏切らないように頑張らねばならないね。それよりもクロエ、怪我をしているようだが……洞窟内で何があった？」

cha0002 クロエ

「は、はい。地震で新しく繋がった洞窟内は魔物の発生が多発しています。そして最深部には多数の財宝と、瘴気を吐き出す大きなオーブ、それを守護する高位の魔物が居ました」

cha0003 クロエ

「村の洞窟と繋がったことで、最深部のオーブが外を求めて動き出したのではないかと思われますが、詳細は不明です……」

cha0005 サラ

「そのオーブが原因でしょうが、クロエさん達が村へ戻ってきた頃から、村へ瘴気が流れ込んでいるようで、なんと言いますか……興奮状態に陥ってしまう村人や冒険者さんが出ておりますわ」

cha0025 ルウシィ

「洞窟の奥にオーブ、瘴気と魔物か……なるほど……。怪我の治療中にわざわざすまなかった。ありがとう」

cha0004 クロエ

「いえ……かなり治ってきていますし、ルウシィさんの為になるのであれば……」

cha0026 ルウシィ

「まずは瘴気が村へ流入しているのを止める必要があるな」

cha0005 クロエ

「でも、どうやって……以前私が結界を張ったのですが、一日も保ちませんでした……」

cha0027 ルゥシィ

「普通ならそうだろうね。大丈夫、策はある。……クレメント、洞窟の様子を見に行こう」

cha0009 クレメント

「俺は何をすれば良いんだ？」

cha0028 ルゥシィ

「洞窟の奥には、悪さをしているオーブと、魔物がたくさんいるから、一切合切を破壊してくれ。端的に言えば、それが君の役割だ」

cha0010 クレメント

「ははっ、シンプルでいいな」

cha0006 サラ

「細かい話がかなり端折られている気がしますわ……」

cha0029 ルゥシィ

「クレメントにはこのくらいが丁度いいんだ。その他は私がなんとかするから安心してくれ」

cha0007 サラ

「お互いのことを知り尽くしている感じ、素晴らしいですわ」

cha0030 ルゥシィ

「二人で冒険をしていればこうなるものだよ。なにはともあれ、現場を見てからだな。気を引き締めていこう」

//【収録メモ】間

cha0031 ルゥシィ

「この洞窟か……なるほど、これはひどい瘴気だ。サラを伴っていたら危なかったかもしれないな……」

cha0011 クレメント

「……う……ぐ、ぐぅ……」

cha0032 ルゥシィ

「ん、なんだクレメント。君もダメか」

cha0006 クロエ

「ど、どうするのですか……？」

cha0033 ルゥシィ

「簡単さ。ただ押し止めるだけだとすぐに破壊されてしまうが、浄化を同時に行えば大丈夫」

cha0007 クロエ

「全然簡単じゃないです……複数属性を操れないとそんな事はできないですよ」

cha0034 ルゥシィ

「ふふ、複数属性魔法は私の得意とする所だ……大地の息吹と、陽光の温もりの障壁を！……よし、ついでに重ねがけをしておくか」

cha0035 ルゥシィ

「クレメントには、加護をつけておく。瘴気の影響も軽減されるだろう……マナよ、盾となれ」

cha0012 クレメント

「ふむ……楽になった。これなら洞窟探索もはかどるな」

cha0008 クロエ

「はあぁ……複数属性魔法の多重詠唱に、同時詠唱ですか……。こんな高等技術は初めて見ました……もう、驚きすぎて言葉になりませんよ……」

cha0036 ルゥシィ

「クロエ、クレメントに同行する意思は変わらないな？」

cha0009 クロエ

「案内役ぐらいなら本調子じゃなくても出来ますから。少しでもお役に立ちたいんです」

cha0037 ルゥシィ

「ならば頼む。クレメントはやや前のめりになる癖があるから、止めてやってくれ」

cha0010 クロエ

「は、はい！　お任せください！　ああ……こんな名誉、他にありません！」

cha0038 ルゥシィ

「そんなに気負わなくても大丈夫。危険な区域になったら、クレメントに任せて戻ってくるように」

cha0039 ルゥシィ

「クレメント、クロエはまだ身体の怪我が治りきってない事を忘れないで」

cha0013 クレメント

「わかってるさ。いってくる」

cha0040 ルゥシィ

「いってらっしゃい」

cha0041 ルゥシィ

「……さて、仕上げをしてしまおう」

cha0008 サラ

「おかえりなさいませ。その、瘴気の対策はどのような状況でしょう……？」

cha0042 ルゥシィ

「万全とは言えないかもしれないが、当面瘴気が垂れ流しにはならないし、魔物の襲来の心配はない」

cha0009 サラ

「それは良かったですわ……！」

cha0043 ルゥシィ

「後はクレメントの頑張り次第だ。私はあまり無理をできなくてね。さっき洞窟の入り口に張ってきた浄化の壁を維持するには、相当な魔力が必要になる。できれば、サラの家で部屋を借りれないだろうか？」

cha0010 サラ

「その程度でしたらお安い御用ですわ。お二人の寝食はお任せくださいませ」

cha0044 ルゥシィ

「感謝する。ところで少し村を見て回ってもいいだろうか。浄化の壁の効果も見てみたい」

cha0011 サラ

「ええ、よろしければ私がご案内しますわ。といっても、これといったシンボルのない、小さな村ですけれど……」

cha0045 ルゥシィ

「そんな事はない。村人や冒険者は穏やかで、商人は威勢のいい声で商売をしている。優れた長が治めている証拠だ」

cha0012 サラ

「そう言っていただけると若輩者なりに日々精進している甲斐があるというものですわ。ではご案内しますわ」

cha0046 ルゥシィ

「よろしく頼むよ」

//【収録メモ】間

cha0047 ルゥシィ

「こうやって見て回ると、本当にのどかで良い村だ」

cha0013 サラ

「ありがとうございます。でも最近は少し心配事がありまして……」

cha0048 ルゥシィ

「心配事？　……ああ、なるほど……家の影から視線を感じる。男性の厭らしい感情が伝わってくるが、これも瘴気の影響か……」

cha0014 サラ

「ええ、今はまだ、何か起こっている訳ではないのですが、これ以上となると治安維持の為に何らかの対策を講じなければいけなくなりますの……」

cha0049 ルゥシィ

「……しかし、この感じは何とも居心地が悪い。慣れないというか、慣れたくはない感じだ」

cha0015 サラ

「村長として申し訳ない気持ちでいっぱいですわ……お客様に不快な思いをさせてしまうだなんて」

cha0050 ルゥシィ

「気にする必要もない。これを含めてなんとかする為に私達がやってきたのだから。だとしても、村の治安悪化は避けたい所だ。クレメントの頑張りに期待しつつ、私も出来ることをやるまでだな」

cha0016 サラ

「そのクレメントさんなんですが、一見アンバランスに見えるお二人はどんな出会いをされたのです？」

cha0051 ルゥシィ

「……また藪から棒だね」

cha0017 サラ

「ちょっとした気分転換ですわ。やはりクレメントさんからでしょうか？」

cha0052 ルゥシィ

「ま、まあ、そういうことになる……。魔法の修練ばかりの私だったが、伸び悩んでいた時期に随分と気にかけてくれてね」

cha0018 サラ

「まあ！　その頃からクレメントさんはルゥシィさんに思いを寄せてらしたのですね」

cha0053 ルゥシィ

「その頃はどうだろうか。知り合った切っ掛けが剣魔合同訓練の折だったから、目についたのかもしれない。勇者のパーティに誘ってくれたのも彼だったな」

cha0054 ルゥシィ

「魔王討伐の出発前夜にプロポーズをされて、まあ、受けはしたのだが、反面絶対に死ねなくなってしまったのには随分と面食らったものだ」

cha0019 サラ

「守るべきものがある人は強い、という訳ですわね。はぁ、なんとお美しいのでしょう……」

cha0055 ルゥシィ

「う、美しいだなんて、サラ、私はそういう色恋沙汰には疎くて……。恥ずかしくて仕方がないのだ。もうこのくらいで勘弁してくれないだろうか」

cha0020 サラ

「ふふふ、いい話を聞くことが出来ました。今後の参考にさせていただきますわ」

cha0056 ルゥシィ

「状況が特殊すぎて参考にはならないだろう……からかってくれるな。もう……」

cha0021 サラ　「ふふふ、余りにルゥシィさんが可愛くって、つい調子に乗ってしまいましたわ。ごめんなさい」

cha0001 アリア（村人MOB）「……ぁ。ん……」

cha0022 サラ　「ん？　ルゥシィさん。今なにかおっしゃいました？」

cha0057 ルゥシィ　「いや、なにも。恥ずかしくて声が出ないくらいだ」

cha0002 アリア（村人MOB）「ん……ふぁあ……」

cha0058 ルゥシィ　「家の影に、人、が……あ……」

cha0003 アリア（村人MOB）「んふふ、ぺろ……ちゅっ、んん……」

cha0023 サラ　「あ……あれは……アリアさん？　何故……どうされたの……？」

cha0059 ルゥシィ　「こんな……外で、するなんて……」

cha0024 サラ　「もしや男性だけじゃなくて、女性まで……ぐっ、ううっ……」

cha0060 ルゥシィ　「サラ！？　はッ……瘴気がこんなところに淀んでいたか。風よ、彼の者の身体を蝕む悪意を払う風となれ……！」

cha0004 アリア（村人MOB）「ん……ぁ……え？」

cha0061 ルゥシィ

「アリア、だね。もう大丈夫。君の体を蝕んでいたものは私が消し去ったよ」

cha0005 アリア（村人MOB）「あ、ありがとうございます……わ、私は、なんてはしたない真似を……」

cha0025 サラ

「さ、服を整えて……手伝って差し上げますわ。すみません、ルゥシィさん。私はアリアさんをお送りしますので、これで失礼しますわ」

cha0062 ルゥシィ

「ああ、よろしく頼む。私は似たような事がないか、あるいは見落としている何かがないか、少し探してみるよ」

cha0026 サラ

「でしたら、私の家で療養をしているクロエさんのお仲間、ジェダルさんにお話を伺ってみるのはいかがでしょう。手がかりを得られるやもしれません」

cha0063 ルゥシィ

「確か、クロエ達のリーダーだったか。ありがとう。聞いてみる」

cha0027 サラ

「それでは、後ほど……」

cha0064 ルゥシィ

「ああ。……まずは、ジェダルの話を聞いてみよう」

//【収録メモ】間

//【SE】ドアをノックする音

cha0065 ルゥシィ

「少し良いだろうか」

cha0066 ルゥシィ

「（部屋の中から、男の応える声が聞こえてきた。クレメントに比べると色気のある声、年若い青年だろうかと想像しながら、ドアノブを捻る）」

cha0067 ルウシィ

「――っ！」

cha0068 ルウシィ

「（扉を開けた瞬間、ハッと息を呑んでしまった。視界に入ってきた青年の瞳に、意識が吸い寄せられてしまう）」

cha0069 ルウシィ

「……なんて……強くて……綺麗な目だ……あっ！　あ、いや、すまない」

cha0070 ルウシィ

「（不思議そうに首を傾げている相手を前に居住まいを直して、自己紹介をする。穏やかに受け答えをする彼には、どこか人を惹きつける魅力があり、心穏やかではない私はさりげなく視線を逸らしながら質問をする）」

cha0071 ルウシィ

「洞窟の中のこと、瘴気のことでなにか知っていることがあれば……む、それは？」

cha0072 ルウシィ

「洞窟の中で得てきたアイテムか……これは、魔力の結晶？　……いや、強い魔の力が封印された結晶のようだな」

cha0073 ルウシィ

「しばらく拝借してもいいだろうか。解析すれば何か解るかもしれない……そうか、感謝する」

cha0074 ルウシィ

「怪我の療養中にお邪魔したね。では、失礼する」

＝【収録メモ】間

cha0075 ルウシィ

「……ふぅ。ジェダルか。随分と綺麗な目をしていた……はっ！　……何を言っているんだ私は。男の見た目で心乱されてどうする……」

cha0076 ルウシィ

「……すぅ、はぁ……よし」

cha0028 サラ

「あ、ルゥシィさん。ジェダルさんから何か情報は得られましたの？」

cha0077 ルゥシィ

「ああ、サラ。帰っていたか。この通り、瘴気の本質に迫れる物を託してもらったよ」

cha0029 サラ

「まあ、綺麗な結晶……」

cha0078 ルゥシィ

「ダメだサラ。不用意に触れてはいけない。封印してあるとは言え、これは魔の結晶、いわば呪いの塊だ。一般人が触れて無事では済まない」

cha0030 サラ

「気をつけますわ……あ、ルゥシィさん。仰っていた滞在用の部屋の準備が出来ていますわ。ご案内しても良いでしょうか？」

cha0079 ルゥシィ

「ほう！　やはりサラは頼りになる。……いや、急な要望だったのにすまないな。サラとジェダルのお陰で、瘴気について光明が見えそうだ」

cha0031 サラ

「ルゥシィさんのお陰で不安がどんどん減っていきますわ。本当にありがとうございます。では私はお邪魔にならないように家の中に居りますわ。何かあればいつでも仰ってください」

cha0080 ルゥシィ

「ありがとう」

//【収録メモ】間

cha0081 ルゥシィ

「さて……この結晶は……と。うーん。思ったよりもマズイ代物だな……。魔王の側近の一人、サキュバスの呪いを結晶化したものじゃないか」

cha0082 ルゥシィ

「ジェダルに逢った時、彼から目を離せなかったのはこれのせいか……ああ、忌々しい。……しかし、サキュバスに由来するものならば、並の封印では太刀打ち出来ないな」

cha0083 ルゥシィ

「破壊は容易いが……ただ壊すのも芸がない。洞窟内の瘴気とリンクさせて、異変を感知出来るセンサーに改造してしまおうか」

cha0084 ルゥシィ

「うん。決まりだ。……大地の息吹と、陽光の温もりの檻！」

cha0085 ルゥシィ

「ふぅ……この村に来てから高度な魔法を連発してばかりだ。戦闘をクレメントに任せているとは言え、褒められた魔力運用ではないな……」

cha0086 ルゥシィ

「そうだ、クレメント達はうまく進めているだろうか……？　ええと……クレメントの魔力は……と。お、居た居た。思ったより深部に潜っているな。さて、繋がるか……？」

cha0087 ルゥシィ

「クレメント、聞こえるかい？　……おや？　おーい」

cha0088 ルゥシィ

「むう、反応しない……戦闘中だろうか……？　仕方がない後回しだ。まずは……そうだな、洞窟の入り口をしっかりと固めてしまおう」

＝【効果音】ガチャッ、とドア開くの音

cha0032 サラ

「あ、ルゥシィさん。おでかけですか？」

cha0089 ルゥシィ

「あ、サラ。丁度良かった。ちょっと洞窟まで行ってくるよ」

cha0033 サラ　「はい。お気をつけて――」

＝【収録メモ】通信魔法での会話中クレメントの声には電話越しのようなエフェクトを掛けてください

cha0014 クレメント　「ルゥシィ、聞こえるかい？」

cha0090 ルゥシィ　「ん？　あ、クレメントか」

cha0034 サラ　「クレメントさん？」

cha0091 ルゥシィ　「ああ、魔法による連絡だ」

cha0015 クレメント　「取り込み中だったか？」

cha0092 ルゥシィ　「いや、サラが隣りにいるんだ。それより、さっきは戦闘中だったのか？　すまなかった。ちょっと君の状況を聞きたくてね」

cha0016 クレメント　「あ、ああ。少し数が多かったが大丈夫だ。歯ごたえのあるやつは少ないから安心してくれ」

cha0093 ルゥシィ　「そうか。やはりクレメントは強いな……安心したよ」

cha0017 クレメント　「ルゥシィの指示は完璧だし、それに俺がきっちり応えて結果も完璧。いつもと同じだ」

cha0094 ルゥシィ　「ああ、そうだな、またなにかあったら連絡するよ」

cha0018 クレメント

「でも……やっぱり俺の隣にはルゥシィ、君が居てほしい」

cha0095 ルゥシィ

「あ、ああ……そうだな……いや、よしてくれ。そっちにはクロエもいるし、私の隣ではサラがいる……そんな恥ずかしいことを言わないでくれ……照れてしまう」

cha0019 クレメント

「そうだったな。悪い。それじゃまた頑張ってくる」

cha0096 ルゥシィ

「ああ、頼んだ」

cha0035 サラ

「……何やらモジモジしていましたが、クレメントさんの愛のささやきでもありましたの？」

cha0097 ルゥシィ

「判ってて聞いているだろう……」

cha0036 サラ

「ふふっ、さあ、どうでしょう」

cha0098 ルゥシィ

「お淑やかななりをして、意外と目ざといな」

cha0037 サラ

「色恋は花のように愛でるタチでして……乙女の嗜みですよ」

cha0099 ルゥシィ

「サラには敵わないよ、降参だ。……よし！　私も頑張ってくる」

cha0038 サラ

「はい。お気をつけて行ってらっしゃいませ」

//【収録メモ】間

cha0100 ルゥシィ

「さて、洞窟まで来たが……うん。我ながら即席極まりない結界だな……もっときれいに編み込んでいかなければ……魔力を流し込んで、一枚一枚丁寧に……くぅ、思ったよりも大変だな……」

cha0101 ルゥシィ

「……なるほど、ここで魔力が漏出していたのか……まだまだ改善の余地は残っているな……」

cha0102 ルゥシィ

「大分整ってきたな……今度は枚数の追加だ」

cha0103 ルゥシィ

「ふむ、浄化作用の魔力と結びつけ……いやしかし……そうか、ここの出力を上げてもロスはそこまで……よし……」

cha0104 ルゥシィ

「……よしよし。いい感じに魔力も流れているし、浄化もしっかり出来ている。ここまでやれば当面、洞窟からの瘴気や魔物の襲来に怯える必要はない」

cha0105 ルゥシィ

「ふぅ、つい術式の最適化に夢中になってしまった。こんなに丁寧に魔法を使ったのは研究生だった頃以来だな。流石に疲れた……戻ったらサラに美味しい紅茶でも入れてもらおう」

cha0106 ルゥシィ

「この件が落ち着いたら魔法研究を再開するのも良いな……おや、あれは……？」

cha0006 アリア（村人MOB）「あ、こんにちは。ルゥシィさん」

cha0107 ルゥシィ

「確か……そうだ。アリアか」

cha0007 アリア（村人MOB）「ええ、その……先程はお恥ずかしい姿をお見せしてすみませんでした。すっかり良くなって仕事も出来るようになりました」

cha0108 ルゥシィ「それは良かった。君の元気な様子が見られてホッとしたよ。もしまた妙な兆候があったらすぐに言ってくれ」

cha0008 アリア（村人MOB）「はい！　良ければ今度、私が働いているお店に顔を出してくださいね、有用なアイテムや美味しい食事を売っていますので」

cha0109 ルゥシィ「ああ、ぜひ伺わせてもらうよ、ではな……。ふぅ……魔力の使いすぎと集中のしすぎか、頭痛もする、今日は早く休むとしよう」

cha0110 ルゥシィ「もう日が暮れるな……少し早めの夕食、サラにお願いしたら作ってくれるだろうか。彼女のご飯は、とても美味しい……ふぁあ……さあ、帰ろう」

// ▼【0004淫夢】

//【収録メモ】オナニーシーンについて。前半はかなり意識が朦朧としている感じでお願いします。後半は中心に感情や欲望の吐露をハッキリさせていくイメージです。

cha0111 ルゥシィ

「……ん……あれ？　私は部屋に戻ってきて早々、ベッドで休んだはずだが……ううん……頭が回らない……。なんでベッドの上に座り込んで、こんな……身体が……え？」

cha0112 ルゥシィ

「はぁ……身体が……ムズムズと……あぁ……くぅ、収まらない……。いや、まて……。この感じ、どこかで……」

cha0113 ルゥシィ

「確か……ああ、そうだ。……んふぅ……アリアの姿を見た時だ……すごく、恥ずかしかったけど……ちょっと……羨ましかった……。気持ちよさそうで、幸せそうで……」

cha0114 ルゥシィ

「んふ……はぁ……どうやったらあんなに、気持ちよさそうに出来るんだろうか……ああ、もどかしい……以前クレメントがしてくれた時も……んぅ、ふぅ……どうしたらいいか、私はあまりにも知らなすぎる……んんっ……」

cha0115 ルゥシィ

「アリアから、何か学べばクレメントも喜んでくれるだろうか……？　アリアは胸だけじゃなかった……はず。どこだったか……指を舐めて、それを……そうだ、下の方に、んんっ……もっと大きなムズムズが……あったっ！」

cha0116 ルゥシィ

「アリアもここが一番気持ちよさそうだった……あっ、ああっ、こんなにびっしょり濡れて……こんなの、初めて……ぁ、これを、指で広げて……ああっ、なんて厭らしいんだ……はぁああっ！」

cha0117 ルゥシィ

「はぁ、はぁ……ん、ちゅっ。んん、はぁ……なんて厭らしくて、ゾクゾクする甘美な味なんだ。あんんっ！　ちゅっ、ちゅぷっ……ああ、いくらでも露が出てくる……身体のムズムズが増える分だけ、露が増えていく……」

cha0118 ルゥシィ

「んんっ、はぁああ、幸せだ……はあああんんっ！　んんっ！　ぁあ、な、なんだこれ……はぁ、はぁ……刺激が強すぎて……でも、ああああっ！　あっ、あっ！　くううううんっ！」

cha0119 ルゥシィ

「あ、はあ……ふぅ……すご、い……もう、ぐちゃぐちゃにして、飛んでしまいたい……はぁ……ふぅ……。この、露の出てくる、ここを……この出っ張りと一緒にこね回したら……私は……」

cha0120 ルゥシィ

「はッ……！！　……っ……はぁ……！　……はぁ……はぁ……はぁ……」

cha0121 ルゥシィ

「……はぁ……夢か……夢で良かった……。なんだって私はあんな……。はっ、あんな夢に私は……濡らしている」

cha0122 ルゥシィ

「昼間の一件で動揺したのか、瘴気の影響か……両方か？　やれやれ。まだまだ私も脇が甘い……ふぁあ……それなりに寝た気がするが……思ったほど経っていないようだ」

cha0123 ルゥシィ

「……ん？　ドアの下にメモが……サラからか」

cha0124 ルゥシィ

「ああ、サラに早めのご飯をお願いして、出来上がる前に眠ってしまったのか……。悪いことをしたな。急いでシャワーを済ませて謝っておかなければ」

// 【収録メモ】間

cha0125 ルゥシィ　「（サラの用意してくれた料理を口にした後。私は少し散歩にでかけることにした）」

cha0039 サラ　「こんな時間にですか？　大丈夫だとは思いますが、夜道にはお気をつけください」

cha0126 ルゥシィ　「（村は今、不安定な状況だ。些細な事柄だとしても発見出来れば幸いだと、夜の村を散策し、一際賑わっている界隈に足を踏み入れていく）」

cha0127 ルゥシィ　「……冒険者向けのマーケットだな。冒険者がその日の最後に必要とするものが一通り揃っているようだ」

cha0009 アリア（村人MOB）「ルゥシィさん！　こんばんは。今日はよく会いますね」

cha0128 ルゥシィ　「アリアか。何かと縁があるようだ。君はここで給仕の仕事かい？」

cha0010 アリア（村人MOB）「えぇ、せっかくだから、ルゥシィさんも少し飲んでいきませんか？」

cha0129 ルゥシィ　「生憎私はあまり強い方ではないが、断るのも無粋だな。少しだけ頂こう……ん！　口当たりも良くて実に美味い」

cha0130 ルゥシィ　「これからも贔屓にさせてもらおう」

cha0011 アリア（村人MOB）「えへへ、まいどありぃー！」

cha0131 ルゥシィ　「ん？　あれは……サラか？」

cha0012 アリア（村人MOB）「あ、本当ですね。一緒にいる女性は、冒険者の方みたいですけど……陳情を聞いたりしているのかも」

cha0132 ルゥシィ「夜になっても村長は忙しいのだな……私の身の回りの世話までしてくれて、感謝の言葉しかないな」

cha0011 クロエ「ルゥシィさん！」

cha0133 ルゥシィ「クロエ！　戻ってきていたのか、その様子だと、洞窟の方の進みは順調そうだな」

cha0012 クロエ「はい、私達が中継地にしていた、比較的安全に過ごせる場所までクレメントさんを案内したので、入り口までのポータルを開いて帰ってきました」

＝【収録メモ】瘴気耐性が出来てきたぞはクレメントのマネをしている風にお願いします。

cha0013 クロエ「クレメントさんは、"瘴気耐性が出来てきたぞ"とか言って残りました。我慢や慣れで耐性が得られるものですか？」

cha0134 ルゥシィ「普通は考えにくいが……まあ、クレメントだからな……」

cha0014 クロエ「ああ、そんな事より、ルゥシィさん凄いですよ！　洞窟の入り口に張った術式、編み直したんですよね？　アレはもう芸術の域ですよ」

cha0135 ルゥシィ「はは、そんなに興奮されると照れてしまうな……」

cha0136 ルゥシィ「しかしクロエ、君の身体もまだ万全ではないのだろう？　早めに休むようにな」

cha0015 クロエ　「はい。洞窟のことはルゥシィさんにお任せして、しっかり休ませていただきます」

cha0137 ルゥシィ　「うむ……ごく……ふぅ。やはり私は酒に弱いな。美味しいが、もう酔ってきた……」

cha0016 クロエ　「ほろ酔いぐらいの方が、きっとよく眠れますよ」

cha0138 ルゥシィ　「そうだな、酒はこれくらいにしておこう。私は部屋に戻るが、クロエはもうしばらくここに居るのかい？」

cha0017 クロエ　「はい。晩御飯もまだなので、ここで頂いていきます」

cha0139 ルゥシィ　「では、その分の勘定と合わせて置いておくよ。おやすみ」

cha0018 クロエ　「えええ……！　ありがとうございます！　おやすみなさい、ルゥシィさん！」

cha0013 アリア（村人MOB）「ありがとうございましたー！」

//【収録メモ】間

cha0140 ルゥシィ　「ふふ、この村の活気、失うわけには行かないな……守るとしようか」

// ▼【0005刻まれる淫紋】

cha0141 ルウシィ

「（酒で温まった身体を、ベッドに沈み込ませる。私はすぐに眠りの世界へと旅立つことが出来た）」

cha0142 ルウシィ

「（しかし……眠りが浅かったのだろうか、苦しさを覚えて、徐々に意識を浮上させていく）」

cha0143 ルウシィ

「ぐ……うぅ……息苦し……なん……だ……くっ……なにか、光って……くうっ……あの、結晶か？　封印を施した、はずなのに……はぁ、はぁ……」

cha0144 ルウシィ

「結晶から、くぅ……瘴気が出ているのか……量は多く、ないが……はぁ、はぁ……なんて厄介な代物だ……利用出来ると考えたのが、間違いか……」

cha0145 ルウシィ

「（さきに見た、淫らな夢も……この結晶のせいかもしれない。間違いなく悪影響を及ぼしてくる存在は、壊す他ない）」

cha0146 ルウシィ

「（リスクは背負うべきではないと判断した私は、傍らに置いていた愛用の杖を手に持ち、振りかざす。魔法ではなく、物理的に破壊するのが有効だと考えた）」

cha0147 ルウシィ

「はあっ！！」

// 【効果音】パキンという割れる音。

cha0148 ルウシィ

「（破壊した――そう思った矢先に、黒いもやが零れ始める！）」

cha0149 ルウシィ

「なんだっ！？　げほっ！　ごほっ！　しまったっ！　瘴気か……ごほっ！」

cha0019 クロエ

「ああっ！？　ルゥシィさんっ！！」

cha0150 ルゥシィ

「クロ……エ……！　だめだ、来るな……！」

cha0020 クロエ

「なんでルゥシィさんの部屋に瘴気が……待っていてください。今助けますっ！　はあ
あっ！」

cha0151 ルゥシィ

「あ……温かい……これは、神聖術？」

cha0021 クロエ

「そうです。魔法とは別系統の癒やしの力です、瘴気を散らすくらいなら、これでも十
分です」

cha0152 ルゥシィ

「なるほどね……魔法以外はよくわからないが、これは……気持ちがいいな……」

cha0022 クロエ

「自然の力で起こす奇跡ですからね。気を落ち着けてリラックスしてください。ほら、
肩に力が入っていますよ」

cha0153 ルゥシィ

「はぁ……はぁ……ああ、すまない……助かった、ありがとうクロエ」

cha0023 クロエ

「……見た所、強い瘴気を吸い込んだように見えます。何があったんですか？」

cha0154 ルゥシィ

「結晶を……ジェダルから預かった魔の結晶を壊したんだ。封印を施していたのに、そ
れでも抑えきれぬ瘴気を秘めていたようだからな……」

cha0024 クロエ

「そうですか……壊したんですね、アレを」

cha0155 ルゥシィ

「出来れば、利用したかったんだがな……」

cha0025 クロエ

「なるほどなるほど。そういうことなら、大丈夫です。もう一個ありますから」

cha0156 ルゥシィ

「どういう……？　おいクロエ、その手に持っているのは、まさか……結晶じゃないか！」

cha0026 クロエ

「ジェダルと一緒に持ち帰ってきた、別の結晶です」

cha0157 ルゥシィ

「いけない、保有していていい代物じゃない。それは……」

cha0027 クロエ

「大丈夫ですよ。これは便利なアイテムなんです。身に宿せば、その瞬間から瘴気の影響を完全に抑えられるんですよ」

cha0158 ルゥシィ

「な、なんだって……？」

cha0159 ルゥシィ

「いや、まて……クロエ、どうして君はここにいる？　まるで私が結晶を壊すタイミングを見計らったかのように……」

cha0028 クロエ

「ふふ、すんすん……ルゥシィさん。いい匂いがします……」

cha0160 ルゥシィ

「や、やめてくれ……寝汗をかいているから、恥ずかしい……」

cha0029 クロエ

「そんなことないです。いい匂いです……ふふ、恥ずかしがってるルゥシィさんは可愛いですね」

cha0161 ルゥシィ

「可愛くなんかっ……いや違う、そんなことより、質問に答えるんだクロエ……！」」

cha0030 クロエ

「私に任せてください。ね？　クレメントさんもこのやり方で瘴気の影響を完全に克服しました。毒をもって毒を制す、ですよ」

cha0162 ルゥシィ

「クレメントも、だと……！？」

cha0163 ルゥシィ

「（私の動揺を他所に、クロエは手に持った結晶を、私に近づけてくる。下腹部の上に置いて、ぐりぐりと押しつけるようにしてきて……）」

cha0164 ルゥシィ

「はあああぁぁぁっ！　なっ、何をっ、んくぅ……やめ、るんだ……」

cha0165 ルゥシィ

「（身体が動かない私に、クロエは妖しく微笑む。まさか彼女は所持していた結晶で狂わされているんだろうか……正気ではない彼女の瞳に、恐ろしさがこみ上げてくる）」

cha0031 クロエ

「大丈夫……大丈夫ですよ……大丈夫……」

cha0166 ルゥシィ

「（まるで赤子をあやすような物言いで、クロエは私に結晶を押しつけてきた）」

cha0167 ルゥシィ

「目を覚ませ、クロエぇ……！」

cha0032 クロエ

「ルゥシィさんはおかしな事を言いますね。私は至って普通です。それよりもほら、綺麗で淫らな紋様が出来つつあります」

cha0168 ルゥシィ

「なんだこの紋様は……くうっ……はぁ、ぁぁ……んんんっ、こんなものに……はぁあっ、まけ、ないっ」

cha0033 クロエ

「ふふふ、心で耐えても、ルゥシィさんの身体は、私の気持ちをどんどん受け入れてくれているみたいですね……はい、完成です」

cha0169 ルゥシィ

「んくううっ！　あああああああああっ！」

cha0170 ルゥシィ

「（結晶が黒い光を放つと同時に、下腹部がこれでもかと熱くなる。身体の内部でのたうち回る熱に、意識が一瞬にして持っていかれる）」

cha0034 クロエ

「あらあら、意識が保ちませんでしたか。下品に腰を逸らして、潮をまき散らして……ああ、下着がぐちょぐちょになってるじゃないですか……可愛いです」

cha0035 クロエ

「良いですよ……今は眠ってください。起きたら、いっぱい幸せなこと……しましょうね」

cha0171 ルゥシィ

「（意識が暗黒へと落ちていく中で、私は自分の甘さを心底呪った……クレメント、せめて君だけは、無事でいてくれ……）」

// ▶【0006収まらない疼き】

// 【収録メモ】まだ眠っている状態での寝言です。

cha0172 ルウシィ

「……ん……まってくれ……クレメント……いやだ、置いて……いかないでくれ……これは……違うんだ……」

cha0173 ルウシィ

「はっ！　え……？　あ……夢か……はぁ……クレメントに、置いていかれる夢を見るなんて……」

cha0174 ルウシィ

「そうだ、クロエ……は居ないか。……下腹部に付けられた紋様、これが夢の原因だろうか……」

cha0175 ルウシィ

「（憎らしいほどはっきりと下腹部に紋様が浮かんでいる。かなり上位の呪いの類、状況的にサキュバスの呪いと言ったところか）」

cha0176 ルウシィ

「参ったな……抑え込める程度だが、さっきから下腹部にジワジワとっ、鬱陶しい……」

cha0177 ルウシィ

「こんなモノさっさと浄化して……陽光よ集え、その温もりで魔を払――ひぁんっ！　くぅん……な、なるほど……魔法詠唱に反応するのだな……これでは意識が逸れて魔力が散逸してしまう……」

cha0178 ルウシィ

「下着が濡れている……うぅ、おもらしをしたみたいになってるじゃないか……替えは、どこにやったか……くぅ……」

cha0179 ルゥシィ

「それにしても……、クロエがなんで……意識を奪われている感じではなかったが……呪いに、操られているのか？」

cha0180 ルゥシィ

「何とかして助けなければ。一応クレメントに連絡を……いや……考えることを任せてくれているのに、頼るわけには行かないし、変に考えてしまうのは極力避けたい所だな……」

cha0181 ルゥシィ

「（考えがまとまり、クレメントを捕捉したところで通信魔法を止めた）」

cha0182 ルゥシィ

「自分の手でなんとかしよう。私自身の、いわば失態なのだから」

cha0183 ルゥシィ

「解決のためには、この呪いを何とかしないと。……ふむ、特大の魔力を流した詠唱で呪いを焼き切れないか？　……生命の根源たる水よ、その――くぅっ！　その生命力で周囲全てのっ、はぁあ……命を癒せっ！」

cha0184 ルゥシィ

「あぁっ！　あっ、ああっ、あああああああっ！　はぁ……はぁ……んんっ、んっく……ふぅ……やはり、んっ……ダメか……」

cha0185 ルゥシィ

「ぁふ……だめだ……身体が動かない……ふぅ、困った」

//【効果音】ギィと床が軋む音

cha0186 ルゥシィ

「なっ！　誰だ！　……ジェダル？」

cha0187 ルゥシィ

「（ジェダルが近づいてくる。いつからそこにいたのか、なんて質問をするより前に……武器を構えようにも、逃げようとも思ったが、満足に動けない）」

cha0188 ルゥシィ

「（そんな私に微笑んだジェダルは、隣に座って、頭に手を乗せてきた。思わず払いのけようとするが、やはり力が入らない。それどころかドキドキしてくる……）」

cha0189 ルゥシィ

「ジェダル……まさか、君もクロエと同じく、呪いに……」

cha0190 ルゥシィ

「（こちらの言葉には一切反応せず、変わらぬ微笑みを携えて、私の身体に手を伸ばしてくる。肌を撫でられただけで、私は……身体の奥底から熱くなってしまう）」

cha0191 ルゥシィ

「んふぁ……紋様が反応している……あんんっ、いやだ……こんなものに反応したくない……くぅぅんっ、ぁはあ……ぁあっ」

cha0192 ルゥシィ

「待ってくれ。私がクロエと共に元に戻して……はぁん、戻してみせるから……君も抗うんだ……んくぅぅ……な？　負けてはダメだ。ああっ、んんんっ！　くぅ……」

cha0193 ルゥシィ

「な、なにを……あぁっ、その手で、あふ……まさか、紋様に直接……んんっ、魔力を流し込むなんて……んんっ、ああ暖かい……暖かくて、んはあっ、ダメ、ダメだ。そんな事したら私は……くぅん、ああっ！　私はきっと耐えられない……っ！」

cha0194 ルゥシィ

「ああああっ！　流れ込んで、来たあああああっ！　ああああんっ！　ダメダメダメっ！　んぁあああああっ！　ああああっ！　くぅぅぅっ！　んぐぅぅぅっ！　んっ！　んんっ！　はぁっ！　はぁっ！　ああああああああっ！」

cha0195 ルゥシィ

「ああああっ！　ああっ！　はぁっ！　はぁっ！　あんん……っはぁ……くぅん……あんっ、ああ、ジェダル……やめてくれ……はぁ……ん……そんなに、優しく……くふ……んん、抱きしめるな……」

cha0196 ルゥシィ

「負けないぞ……私は……まけ、ない……ぞ……」

//【収録メモ】間

cha0197 ルゥシィ

「（気がつくと、私は床に倒れ込んでいた。空が白んでいて、窓からは早朝特有の優しい明かりが差し込んでくる）」

cha0198 ルゥシィ

「（普段ならぼんやりとしながら空を見つめて、今日の天気へ考えを巡らせるのだが……そんなことを気にする余裕もなかった。身体を起こすこともせず、私は股間へと指を伸ばしたのだ）」

cha0199 ルゥシィ

「あっ、あん、んんんっ……んんぅ、かゆい、こそばゆい、ムズムズする……んぁぁ、あっ、あっ、あ、あ、あ……」

cha0200 ルゥシィ

「（何度も何度も、女の性器に指を押し当てて……抑えられない情欲を解消しようとする）」

cha0201 ルゥシィ

「あぁぁぁぁぁぁ〜〜〜〜……！」

cha0202 ルゥシィ

「（一心不乱に快楽を貪る。そんな自慰行為が、ただただ続いていく……。日が高くなってきて、朝の喧噪が聞こえてくる時合いになってもなお、ずっと……）」

//【効果音】コンコンとドアがノックされる音

cha0203 ルゥシィ

「っ！」

cha0040 サラ

「ルゥシィさん、起きていらっしゃいますか？　朝になりました、そろそろお食事を召し上がっては……」

cha0204 ルゥシィ

「あ、ああ、サラか……起きてはいるが、ふぅ……少し体調が悪いんだ。もう少し寝てから頂くよ」

cha0041 サラ

「承知いたしましたわ。あまりご無理をなさいませんように」

cha0205 ルゥシィ

「ありがとう。すまない……」

cha0206 ルゥシィ

「行った、か……ふぅ……んんっ、っく……ぁふ、んんっ、サラに隠れて自室でこんなことを繰り返して……何をやっているんだ私は……んんっ、あんんっ」

cha0207 ルゥシィ

「んくぅぅっ、ふぁあ、もう何回目か忘れる程イッているのに、全然物足りない……んふぅ……あんっ、んんんっ、もっと刺激が……ああっ、ほしい……」

cha0208 ルゥシィ

「ジェダルの魔力に包まれたあの絶頂、意識が吹き飛ぶほどの快楽……それでもう一度この身を焼きたい……あぁ……あふ、んんん……ジェダルの魔力と私の魔力、どんな違いがあると……んっ、んっ！　んっ！　ああああっ！」

cha0209 ルゥシィ

「ああっ、イクっ、イクぅぅぅっ！　ああああああああっ！　ああっ！　ぁふ……んんっ……あ……」

//【効果音】コンコンとドアがノックされる音

cha0210 ルゥシィ

「す、すまない、サラ、まだ食事は……」

//【効果音】ギィと床が軋む音

cha0211 ルウシィ

「あっ！？　ジェダル！　……ん、な、何をしに、きた……んく……くぅぅ……予想以上？　くはあっ、なんの、ことだ……」

cha0212 ルウシィ

「別につよ、ぁふんっ……強がっているわけじゃ……くんんんっ！　な、なんだ！　笑うな！　んん……そんなに魔力を放出して……くふうっ……何をしたい……んっ、んん……」

cha0213 ルウシィ

「んふぅ、別に……ぁふっ、君の魔力で感じてなんか……んくぅんっ、んんっ、はぁんっ！　あぁ……いつまでそこに立っているつもりだ……用がないのなら……ぁ、ああ……ぁんんっ！　はぁ、はぁ……くぅんんんっ！」

cha0214 ルウシィ

「……ああ、用がないのなら早く部屋から出ていってくれ。でないと……私が……こま、る……んんんっ！　くぅうん……早く……出ていくんだ……」

cha0215 ルウシィ

「あ、はぁ……はぁ……ズボンからそんなモノを取り出して、ごくり……魔力を集めて、はぁ……んん……私に何をさせるつもりだ……笑ってないで、んん、ふぁあ……なんとか言ったらどうだ……」

cha0216 ルウシィ

「な、なぜベッドに行こうとする？　ここは私の部屋だ……ベッドに横になるな！　あ、ぁふ……はぁ……はぁ……んんっ、くぅ……もう、無理だ……」

cha0217 ルウシィ

「今から起こることは、あはぁ……っくぅ……夢だ。はぁあん……目を覚ませば消えてしまう、はぁ、はぁ、儚い夢だ……っはぁ、あぁ……」

cha0218 ルウシィ

「はぁっ……はぁっ……こうやって跨ると、屈服させたようで気分がいいな……はやく、ほしい……んはぁっ……」

cha0219 ルゥシィ

「はぁっ……んんっ、ひゃあっ！　迸る魔力に触れただけで、あふううっ、こんなに……あああっ！　表面だけじゃなくて、んんっ、中にも……はぁっ、はぁっ、どんなに気持ちが……ああっ」

cha0220 ルゥシィ

「あああ、入って、いく……大きな、のが……んふぅ、はぁ……あ、ふ、うぅううんっ！　あああああっ……奥までっ、ああっ……はああっ、ぁんっ、ふぁあっ、ああっ！」

cha0221 ルゥシィ

「んくうぅっ……あはあっ、大きなモノが、ああああっ！　こんなにっ、良いなんて……はぁんっ、しらなかった……んんっ……アソコの中も身体も、こんなにも満たされてっ！　あっ、ああっ！」

cha0222 ルゥシィ

「奥に、ゴツゴツあたって、はぁんっ……はぁ、はぁっ……んんんっ！　こんなの初めてで……すぐ、イッちゃ……ああああっ！　んんっ、んひぃ……深いいっ……ああああっ！」

cha0223 ルゥシィ

「くうっ！　んはあああっ……下から突き上げてはいけない、ジェダル、ひぃんっ！　んんぁっ、ああっ、あっ、あっ、だめ、だと……言っているっ、はぁあんっ！」

cha0224 ルゥシィ

「あ、あ、あっ、あっ、あっ！　イク、イクイクっ、一番奥を突かれて、我慢なんか出来るわけがなああっ！　あんっ！　あんっ！　んぁあああああっ！」

cha0225 ルゥシィ

「子宮の奥まで、ジェダルの魔力が、あんっ！　ビリビリっ、はああんっ！　んぁぁぁああああっ！　中に熱いのがぁっ、ひんっ！　たくさん、ああっ、まだイク！　イッてるのに、イクうううっ！」

cha0226 ルゥシィ

「ああっ……あっ……あふ……んっく……はぁ……シビれ、たぁ……んっ、くはぁ……。こんな事……なんで私はこんな事を……んっ、はぁ……腰が、勝手に……ふぁ、あんっ、んっ、んっ……くぅん……」

cha0227 ルゥシィ

「んふぅ……ああっ、もっと気持ちよく、翻弄されて……あんんっ、何もかもわからなくなるくらい……しびれるほど、くぅんっ、イキたい……はぁんっ、ふぁああ……あんっ」

cha0228 ルゥシィ

「ぁひ……ひぃんっ、こんなの、サキュバスの思うつぼ、なのにぃっ、あんっ、あんっ！　こうならないために、頑張ってきたのに……あふっ、んんっ！　んはぁっ、あっ！　ああっ！」

cha0229 ルゥシィ

「でも、だめ、イクことしかぁ、あひっ、あひぃっ、なにもっ、あああっ！　考えられ、な、あああっ！　考えられないいいっ！　んんんくぅぅぅぅぅっ！」

cha0230 ルゥシィ

「んはあっ！　はぁっ……あっ……あ……あ……あ……ぁ……ぁ、あ……」

cha0231 ルゥシィ

「ん……くうぅ……はぁっ。なんだか久々にいい目覚めな気がするな……」

cha0232 ルゥシィ

「そうだ、全然良い事なんてなかった。私は昨日……ジェダルの魔力欲しさに欲望を満たすような真似をしたのだった……。あんな事をシても何の解決にもなりはしないというのに……我が事ながら嫌になる……」

cha0233 ルゥシィ

「そういえば、紋様が大人しい……あれだけはっきりしていた紋様が随分と薄くなって、あの焦らされる感じも殆どなくなっている……」

cha0234 ルゥシィ

「ジェダルの魔力で絶頂すれば紋様の力を削ぐことが出来るのか。……いや、それはそれで問題だろう……。紋様の力を低減するためにはジェダルと、し続けなければいけないじゃないか……」

cha0235 ルゥシィ

「（クレメントの顔が脳裏をよぎり、とても大きな罪悪感が沸き起こる。この異常な事態は、クロエやジェダルの状態を見抜けなかったから……失敗したのだ、私は）」

cha0236 ルゥシィ

「すまない、クレメント……絶対に、どうにかしてみせるから、許してくれ」

cha0237 ルゥシィ

「（彼は今も、洞窟の中をぐんぐんと進んでいるだろう。背中を預けてくれているのだから、応えなければならない……使命感が、私を立ち直らせていく）」

cha0238 ルゥシィ

「紋様の効果が、永続的なものではないとすれば、どこかに付け入る隙きがあるはずだ……ここが正念場だな」

cha0239 ルゥシィ

「……そうだ。クレメントの状況も把握しておきたい……が、魔法を使うと紋様が疼くのだったな……いやしかし、必要なことだ。そっとやろう。そっと……」

cha0240 ルゥシィ

「クレメント、聞こえるかい？　クレメントー」

cha0020 クレメント

「あ、ルゥシィ！　くっ！　今戦闘中だから、また後で頼む！」

cha0241 ルゥシィ

「ああすまない！　ふう……朝から戦闘か、やはりあちらは頑張っているな。……紋様の疼きは、来なかった……なるほど、あの呪いは魔法詠唱に反応するのだな。通信魔法を詠唱のいらない契約魔法にしておいて良かった」

cha0242 ルゥシィ

「そうだな……ひとまずシャワーを浴びてしまおう」

＝【収録メモ】間

cha0021 クレメント

「ルゥシィ。今いいか？」

cha0243 ルゥシィ

「あ、クレメント。さっきはすまなかった」

cha0022 クレメント

「ん？　シャワー中なのか。後にしようか？」

cha0244 ルゥシィ

「いや、今終えて、出てきた所だ。そちらの調子はどうだい？」

cha0023 クレメント

「俺は問題ないが、敵の不意打ちが多くてな。休息の邪魔をされて腹が立つ程度だ」

cha0245 ルゥシィ

「休息が取れないと進めるものも進めなくなってしまう、本当に大丈夫か？　なんだったら一度戻ってきてもいいんだぞ、クロエが中継地点にポータルを開いてくれているはずだろう？」

cha0024 クレメント

「今ルゥシィの声を聞けているし、まだ暫くは大丈夫だ。元気が出た」

cha0246 ルゥシィ

「またそういう……私の方も、あまり上手くいってはいないが、クレメントの声を聞けて安心したよ」

cha0025 クレメント

「へえ、素直に甘えてくれるとはな。そんなルゥシィもいいと思う」

cha0247 ルゥシィ

「――――っ！　い、今私は、裸なんだ。裸なのに、そんな事を言われたら、恥ずかしすぎて死んでしまうじゃないか、いや裸なのは関係ないかもしれないが……ええいっ」

cha0026 クレメント

「ははは、すまんすまん」

cha0248 ルゥシィ

「ああ、もう……身体を拭いてしまおう……そ、それで、私からクレメントに伝えておきたいことなんだが……洞窟内で瘴気を放つ結晶を見つけても、安易に破壊してはいけないぞ」

cha0249 ルゥシィ

「あと、クロエだが、洞窟の最深部で何かの呪いを貰ってきたようだ。彼女の言動には十分に注意してほしい」

cha0027 クレメント

「ふむ……わかった。気を付けよう」

cha0250 ルゥシィ

「クロエといえば……そうだ、クレメント、君も彼女に何か……」

〃【効果音】コンコンとドアをノックする音

cha0036 クロエ　「お邪魔しますね」

cha0251 ルウシィ　「あっ、クロエ、何をしに来た……！」

cha0037 クロエ　「そんな怖い顔で見ないでください。昨日は随分と夢中になっていたので、ちょっと様子を見に来ただけですよ」

cha0252 ルウシィ　「クレメント、すまない。一回切るぞ」

cha0038 クロエ　「へぇ、洞窟内のクレメントさんとお話してるんですか？　やっぱりルウシィさんはすごいです。私なんかやり方を教わってもきっと出来ないでしょうね」

cha0028 クレメント　「お、おい。ルウシィ？　クロエがどうかしたのか？」

cha0253 ルウシィ　「あ、あれ……なんで切れていないんだ……？」

cha0039 クロエ　「せっかくですから、もっとその魔法の事、教えてくれませんか？」

cha0254 ルウシィ　「君の仕業か……くそ……」

cha0040 クロエ　「クレメントさんにはどこまで伝わるんですか？」

cha0255 ルウシィ　「……私とクレメント、双方の声だけが伝わっている」

cha0041 クロエ

「見ている光景は、伝わらないんですね……じゃあ、繋がっている間に、こんな物見せられたら、ルゥシィさんは困っちゃうわけですね？」

cha0256 ルゥシィ

「なにを……！？」

cha0257 ルゥシィ

「（突然服を脱ぎ始めた事に驚く間もなく、クロエの下腹部に視点が集中してしまう。そこには……女にはあるまじき、太くて固くて、長いモノがそそり立っていた）」

cha0042 クロエ

「私が、こんな立派なモノを持っているのが不思議ですか？　結晶の力で、生やしたんです……んっ……これ、魔力、たくさん出ますよ？」

cha0258 ルゥシィ

「う……うぅ……ジェダルより、凄いのか……？」

cha0043 クロエ

「ええ……ほらほら、思い出してください……ふふ、しっかり思い出してくれてるみたいですね。耳まで赤いですよ」

cha0259 ルゥシィ

「く、うぅ……っ……違う、そんなこと、気にしていない、私は……しまってくれ、そんなモノに興味はないし、用はない」

cha0044 クロエ

「んふふ、やっぱりルゥシィさんは可愛いです。もっともっと私に可愛いところ、見せてください」

cha0260 ルゥシィ

「（微笑むクロエがゆっくりと、私の背後に回る……抗うべきなのに、私は、蛇に睨まれた蛙のように動けなかった）」

cha0045 クロエ

「期待しちゃってるんですね……わかります、ほら手を、貸してください……私のふたなりおチンポ、こんなに熱くてカチカチになっています……」

cha0261 ルゥシィ

「あ……んくぅ……うぅ……」

cha0046 クロエ

「ほら、ルゥシィさん。握ったこの手をどうしたら良いか、分かりますよね？」

cha0262 ルゥシィ

「い、いや……うぅ……わからない……」

cha0047 クロエ

「んー！　ルゥシィさん純真すぎます！　無垢と言っていいです。こういうときは、きゅっと握って、前後にシコシコするんですよ」

cha0263 ルゥシィ

「いやだ、私はしない、やらないからな……」

cha0048 クロエ

「とか言いながら、にぎにぎしてます……あはぁ……良いですよ。素直になってきましたね。んん、すごく良いです。そう、シコシコ……ぁふ……んっ、ぎこちない感じが最高ですよ……ぁんん……」

cha0264 ルゥシィ

「手に、魔力が、伝わってきている……」

cha0049 クロエ

「んふ……ジェダルのときと同じか、それ以上の魔力です……ね、これがまたルゥシィさんの中に入ってきたら、素敵だと思いませんか？」

cha0265 ルゥシィ

「あ、ああ……そうだな……いや、それは……困る……」

cha0050 クロエ

「大丈夫です。これが欲しくて昨日はずっとオナニー三昧だったの、知ってるんですから。ホントは今日もいっぱいほしいの、私は知っています」

cha0266 ルゥシィ

「そんなこと……ない……だって、さっきまで、全然平気だった」

cha0051 クロエ

「でも今は、じゅんって濡れちゃってますよね、シャワーを浴びて綺麗になったあそこが、またヌルヌルになってきてますよね？」

cha0052 クロエ

「良いですよ、もっと素直になって……私は女ですから、ジェダルよりもっとルゥシィさんを気持ちよく出来ますよ。楽しみで堪りませんよね」

cha0267 ルゥシィ

「はぁ、はぁ、はぁ……うぅ……くぅうっ……はぁっ……」

cha0053 クロエ

「いいですよっ、んぁ、シコシコ早くなって……ぁん、気持ちいい……もう、十分です、入れてあげますね……逃げるなら今です、ほら、抵抗するなら今しか無いですよ……」

cha0268 ルゥシィ

「はぁ、はぁ、はぁ、はぁ、はぁっ……！」

cha0054 クロエ

「パンツをずらして、入り口まで来てますよ。ふふふ、よく濡れてるじゃないですか。嬉しいです。ほら、ズブズブと入っていきますよ」

cha0269 ルゥシィ

「くぅうっ……んぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ……」

cha0055 クロエ

「ルゥシィさんの我慢がどこまで続くでしょうか……私、頑張ります。んっ……んっ……ぁふ……。中がぎゅうぎゅう締め付けて、ぁんっ、夢中になっちゃいそう……んっ、ああっ」

cha0056 クロエ

「はぁ……ぁんっ、んんっ、んふ、どうです？　ジェダルと比べて。はぁ、あんっ、んくうっ……どっちが気持ちいいですか？」

cha0270 ルゥシィ

「くうう……はっ、はっ、んぅ……くろ、え……」

cha0057 クロエ

「聞こえませんよ？」

cha0271 ルゥシィ

「クロエの方……」

cha0058 クロエ

「あはっ！　じゃあ、これ聞いちゃいます……。はぁんっ、んんっ……ね、ルゥシィさん。私とクレメントさんどっちが気持ちいいです？」

cha0272 ルゥシィ

「……んぅ……くうっ、言いたく……ない……」

cha0059 クロエ

「ふぅーん……それは困りました。言えるようになるまで、私、頑張りますからっ、んっ、ふっ、ぁんっ！　乳首も捏ね回してあげますね。んっ！　んふぁっ！　ああっ！」

cha0273 ルゥシィ

「くううっ！　やめっ、クレメント、耳をふさいでくれ！　くぅんんんっ！！」

cha0060 クロエ

「ぁんっ、ルゥシィさん……そんなにクレメントさんに気持ちよくなってる所知られたくないですか？　んっ、んっ、こんなに可愛くて魅力的なルゥシィさんを知らないのは可愛そうですよ……ぁん、んんっ」

cha0274 ルゥシィ

「んんっ……私は、そんな風には、ふぅ……ふぅ……思わない！　んんんっ！」

cha0061 クロエ

「あんっ、んふ……ああ、もぅ……そんな強情な所、私は嫌いじゃないです……でも、どっちが良いか言ってくれないのはヤです……あんっ、あんっ、私の思い、あふうっ、受け止めてくださいねっ、んんっ！」

cha0062 クロエ

「あ、キたっ……あんっ！　もうすぐ、もうすぐ中にっ、はあっ、魔力たっぷりの、あんっ！　エッチな汁が、んんんっ！　でますっ！　ああっ！　出るっ！　出るうう！　あああああっ！」

cha0275 ルゥシィ

「くうっ……はぁっ、はぁっ、あ、あ、あ、ああっ！　ふぁあああああっ！　ああっ、イク、イクぅぅぅぅう！」

cha0063 クロエ

「はぁっ、はぁ……あは、良いイキ声でした……んんっ、んふあ……クレメントさんは何か言っていますか？」

cha0276 ルゥシィ

「はぁ、ふぅ……残念だが、少し前に通信魔法は……切れている」

cha0064 クロエ

「えええ……ああ……切断するのに集中していたから、反応がやや淡泊だったのですね……さすがというか、なんというか……ルゥシィさんの可愛い所、クレメントさんに知ってもらえたら、もっとお二人は仲良くなれますのに……」

cha0277 ルゥシィ

「その方法は間違っている……。そんな事で親交が深まったりはしない」

cha0065 クロエ

「でも、ルゥシィさん。気づいてますか？　ルゥシィさんのおマンコ、すっかりおチンポに馴染んでいて、大喜びしています」

cha0278 ルゥシィ

「くっ……どうとでも言うが良い……」

cha0066 クロエ

「なんでそんなに悔しそうな顔をするのですか？　良いことじゃないですか！　お祝いしましょう！」

cha0279 ルゥシィ

「……やめてくれ」

cha0067 クロエ

「えー……仕方がないですね、ルゥシィさんが幸せになれるよう、別の方法を考えてみます。では今日はいきますね」

cha0280 ルゥシィ

「ああ……早くクロエを元に戻さないと……私が持たない……な……」

cha0068 クロエ

「……また気持ちいいこと、しましょうね！」

cha0281 ルゥシィ

「……しない！」

cha0282 ルゥシィ

「はぁ……今日は朝からなんて日だ……シャワーを浴び直しても、そうそう気持ちまでは変わらないな……」

cha0042 サラ

「お食事、お口に合いませんでしたか？」

cha0283 ルゥシィ

「すまない、料理は美味しいよ。そうではなくて……ちょっとな。気にするな」

cha0284 ルゥシィ

「クロエやジェダルは、今はいないのか？」

cha0043 サラ

「何か御用があると言って、お二人で出かけられました。お怪我はもう良いみたいで、ホッとしています」

cha0285 ルゥシィ

「ああ、そうだな……」

cha0286 ルゥシィ

「（今朝のアレは、考えれば考えるほど、まずいな……快楽に、心も身体も、とても弱くなっている……手を出されていなくとも、期待が生まれるだけで、心まで押し流されてしまう……）」

cha0287 ルゥシィ

「（心が流されてしまえば、そこまでだ……クレメントが洞窟の最深部へ到着し、守護している魔物を蹴散らすまで、足掻けるだけ足掻く）」

cha0288 ルゥシィ

「（幸い、紋様の力はだいぶ落ち着いている……多少の無理をすれば、魔法も行使できるだろう……あとはタイミングだが、ひとりでは限界があるな……）」

cha0289 ルゥシィ

「（サラに協力してもらうか？　いや、村のためとは言え一般人の彼女を巻き込んで良いものか……？）」

cha0044 サラ

「あ、あの……ルゥシィさん？　やはりお口に……」

cha0290 ルゥシィ

「ちょっと考え事をしていた。せっかくサラが作ってくれたのに、失礼だったな」

cha0045 サラ

「あの、何かお困りごと、ですか？　お役に立てるかわかりませんが、私で良ければお聞かせください」

cha0291 ルゥシィ

「ん……そうだな……サラ、一般人の君を巻き込むのは本意ではないのだが……しかし、折り入って頼みがある……クロエとジェダルの事で。ちょっと隣に行くよ」

cha0292 ルゥシィ

「クロエとジェダルは……おそらく、洞窟の最奥に眠る者の手に落ちている。様々な状況から、魔王の側近のサキュバスだと睨んでいる。直接的な攻撃はしてこないが、あの手この手で私もあちら側へ連れて行こうとしている」

cha0046 サラ

「まあ……そんな事が……」

cha0293 ルゥシィ

「サラにも同様に、魔の手が伸びてしまうかも知れないが、私はクロエとジェダルを助けたい。しかし、一人ではどうも難しい。だからサラ、君の手を借りたいんだ」

cha0294 ルゥシィ

「洞窟の攻略ができても、皆を健全な状態に戻さなければ、何の解決にもならない。村を救うためにも、手を貸してくれ」

cha0047 サラ

「分かりましたわ。元々クロエさん達をこの村に招いたのは私です。無関係とはとても言えませんわ。微力ではありますが、お力添えをさせてください」

cha0295 ルゥシィ

「……ありがとう。これほど心強い味方は居ないよ」

cha0296 ルゥシィ

「プランとしてはとても単純だ。クロエやジェダル、そして私。それぞれの身体に刻み込まれている呪いの紋様が、心を狂わせている元凶だ。これらをすべて私が封印、破壊する」

cha0297 ルゥシィ

「封印と破壊の術は、既に思いついている。後は実行するだけだ……しかし、クロエとジェダルを二人同時に相手取るのは難しい」

cha0298 ルゥシィ

「そこでサラ、君の出番だ。何とかして二人を引き離せるタイミングを作って欲しい。出来るだろうか……？」

cha0048 サラ

「……準備が必要そうですね。ですが、お任せください」

cha0299 ルゥシィ

「ありがとう。私も全力を尽くそう」

cha0300 ルゥシィ

「よし……いいようにされるのは、ここまでだ。反撃の狼煙をあげるとしようか」

//【収録メモ】間

cha0301 ルゥシィ

「（夜になり、紋様の力が高まってきた頃合い……気を抜くとすぐに荒くなる呼吸を、必死になって整えながら、その時を待つ）」

cha0302 ルゥシィ

「（まずはジェダルだ。彼はクロエよりも、呪いの影響が色濃く出ていると見える。何しろ瞳を見ただけで息を呑んでしまうくらいなのだから、女にとっては天敵のような存在と化している）」

cha0303 ルゥシィ

「（ジェダルをなんとかできれば、後はクロエだけだ……導くべき、理想的な展開を頭に思い浮かべながら、自室で待っていると……ジェダルが、扉を開けた）」

cha0304 ルゥシィ

「来たな……やはり、その目……紋様の力に、精神まで汚染されてしまったのだな……完全に元には戻せないかもしれない、すまない」

cha0305 ルゥシィ

「今から紋様自体に結界を施す……浄化し、無効化する……さあ……無駄な抵抗はやめて、力を抜くんだ……」

cha0306 ルゥシィ

「そうだ、いいぞ、そのままベッドに横になれ……やけに聞き分けがいいな……もしや、出来ないと思っているのか？　見くびって貰っては困るぞ、私の力を」

cha0307 ルゥシィ

「よ、よし、脱がせるからな……私は脱ぐ必要がないだろ。別にいいじゃないか……服と下着をずらせば、んっ、入れられるからな……」

cha0308 ルゥシィ

「ふふ、やはり君のモノは大きいな……魔力を帯びた君のこれは、こうやって触れているだけで私の紋様が疼いてしまうよ……」

cha0309 ルゥシィ

「クロエは私がこうやって握ったら喜んでいたが、んっ、ジェダル、君はどうだい？　はぁ、はぁ……ニチャニチャと厭らしい音がしているが、どうなんだ？　んふぁ……ん、んっ、んっ……」

cha0310 ルゥシィ

「ははっ、腰がガクガクしているじゃないか。そうか、私の手はそんなに気持ちがいいか。ふふ、昨日は君の掌の上で踊らされたようなものだが、ついに攻守交代だな」

cha0311 ルゥシィ

「何をするのか、そろそろ教えよう……これから君の固くなったモノを、私の性器で飲み込む……そして、射精させる。紋様の力を弱めたら、結界にて紋様を封印する」

cha0312 ルゥシィ

「私の紋様には、すでに結界を施してある……前みたいに、情けない姿を晒すことはない……何を、笑っている……くっ……信じないならば、それでもいい」

cha0313 ルゥシィ

「では、いくぞ……反り立って、大きな君のモノを……んっ、んんっ、飲み込むぞぉ……！　あ、はぁ……中が満たされ、る……ああっ」

cha0314 ルゥシィ

「んっ、んっ、はぁん……ゴリゴリと中を、ふぅん……擦る固さは、んぁ、健在だな。あふ、んんっ、んっ……。あんっ……思いの外、敏感になっている、あんっ、んんっ、かも……はぁん……」

cha0315 ルゥシィ

「んぁ……はぁ……んんっ、中で君のが更に大きくなっているぞ……？　んんっ、んっ、あっ、ああんっ、んん……あんっ、意外と、早くイキそうだな……いいぞ、我慢せず、出せ、はぁん、んんっ、んっ」

cha0316 ルゥシィ

「あっ、ああっ、なんだその表情は……はぁあんっ、ああっ、随分と、余裕そうじゃないか……んんっ、んくうっ、強がるなど……あんっ！　あふっ、ふぅうん……！」

cha0317 ルゥシィ

「ちゃんとしごいてやる、私の中身で……ん、んふぅ……してやる、さっ、んんんっ！ あはぁ……深く入って……ふぁ、んんっ、んっ、んっ、ああっ、違う所をゴリゴリと、あふ、ふぁあっ！ 擦って、はああんっ！」

cha0318 ルゥシィ

「ああっ、あんっ、んんっ、くぅぅぅうっ、このあたりも、もっと、はぁんっ、ああああっ！ ああここも、いいっ！ ジェダル、下から突き上げるんだ。あんんっ！ 私が、私も一緒にイけるように、ぁんっ！」

cha0319 ルゥシィ

「んくぅ……ああっ！ んんっ、んっ！ んっ！ くぅぅっ、ふぅぅんんっ！ くうっ、くひぃんっ！ んんっ、んっ！ はぁああっ！ ふぁああっ！」

cha0320 ルゥシィ

「んんんっ、あっ、あんんっ！ んっ！ んっ！ あんっ！ んくぅっ！ んっ！ んっ！ あ、はあああっ！ たくさん、中にぃっあああっ、熱いのがっ！」

cha0321 ルゥシィ

「はぁ、はぁはぁ、中が焼けるような、この、あんんっ、この感覚……あ、あ、ああ、ああっ！ イクうっ！ ああああああああっ！」

cha0322 ルゥシィ

「ああ……くぅぅん、んんっ、っはぁ……ぁん……いま、こそ……はぁ、はぁ、封印の、魔法を……落とせ、塵一つ、通さぬ、檻を……んぁぁぁ……っ」

cha0323 ルゥシィ

「ふぅ、ふぅ、封印は、終わった……これ、で……んんっ、助け、られる……あふ……んっ、ふぁ……んん……はぁ……ふぅ……ジェダルは、気を失ったか……」

cha0324 ルゥシィ

「気を失っても、まだ中でビクビク、跳ねている……んん……むぅう……足りなくなって、しまうじゃないか……」

cha0325 ルゥシィ

「助けるための、セックスは、終わりだ……気を失っている所、すまないが、ジェダル……しばらく、私のオナニーに、付き合って貰うぞ……オチンポを使った、オナニーだ……はははは……」

cha0326 ルゥシィ

「あっ、あっ、あっ、はぁぁぁぁぁ〜〜〜〜っ」

cha0327 ルゥシィ

「（相手の意識がないことをいいことに、私は何度も何度も腰を上下させる。クロエを助けるためにも、淫らな気持ちは、ここで解消しておかないとな……）」

cha0328 ルゥシィ

「（どれだけ時間が経っただろう。扉が開いて、サラが入ってきた頃には、私は足腰が立たなくなる程になっていた）」

cha0049 サラ

「ルゥシィさん、サラですわ。その……大丈夫ですか……？」

cha0329 ルゥシィ

「はぁ……ふぅ……サラか。大丈夫だ。ここで止めるわけには行かない」

cha0050 サラ

「ルゥシィさん……わかりましたわ。もうすぐクロエさんがやってきます。ご準備を」

cha0330 ルゥシィ

「わかった。頼んだぞ」

cha0051 サラ

「……はい」

cha0331 ルゥシィ

「クロエが来る前に、ジェダルを捕縛しておかなくては……くっ、うう……身体が重い。でもやりきらなくては……」

cha0332 ルゥシィ

「（クロエの身体にあった紋様にも、ジェダルと同じ封印を施すのに、さしたる時間は掛からなかった）」

cha0333 ルゥシィ

「（性を刺激する紋様ならば、性の力を使う……毒をもって毒を制す。クロエが言っていた事を逆手に取ったプランは、上手くいき過ぎているくらいに上手くいった）」

cha0334 ルゥシィ

「やりきった……クロエもジェダルも、もう紋様に狂わされることもないだろう。あとはクレメントがやってくれるのを待つだけだ……」

cha0335 ルゥシィ

「色々と手こずったが、ようやくだな……はふ……もう明け方近いが……、今日は、色に惑わず……眠れそうだな……」

cha0069 クロエ

「おはようございます、ルゥシィさん。楽しい楽しい夢の中へようこそ」

cha0336 ルゥシィ

「ん……んん……あぐぅっ！　はぁっ、あんんっ！　な、なんだ！？　ああっ、なん……で、んふあぁ、うそっ、ジェダルのモノが、私の奥まで入ってる、はぁんっ！」

cha0070 クロエ

「ここは夢の中です。現実とは違う、己の欲望を解放できる夢の中……何も考えなくていい、ただ情欲に従うんです」

cha0071 クロエ

「あなたは、やり遂げたんですから……私もジェダルも助けた。ですから、享楽に耽ったとしても誰も責めません、だから……」

cha0337 ルゥシィ

「夢っ……あぁんっ！　んくぅぅ、んんっ、くぅっ、んぁあっ！　ああああっ、下腹部に、魔力が、流れてきてっ、あんんっ……んんっ、んっ、くぅぅぅっ！」

cha0072 クロエ

「いきましょう……まだ知らぬ、快楽の極致へ」

cha0338 ルゥシィ

「あっ、ああああっ、んんんっ……はあっ、気持ちいいっ！　あふっ、ふぁあっ！　んくうっ、この感じ、はぁあんっ！　ああっ！　あ、あ、あっ！」

cha0073 クロエ

「ふふ、ルゥシィさん、こんなに淫らだったんですね。身体も、おマンコも、ビクビクして……可愛いです」

cha0339 ルゥシィ

「どうせこれは、夢なんだからっ、あんんっ……あぁんっ！　ああっ！　だから、んくうぅ、だからぁ……そう、そこっ、おマンコの奥、ああああっ！　もっと、もっと突いてくれえっ！　ぁあんっ！　あっ、あっ、ああっ！　はぁああんっ！」

cha0074 クロエ

「これがルゥシィさんの願望なんです。本心では快楽を貪りたかった。良いんですよ。存分に楽しんでください」

cha0340 ルゥシィ

「あん、あんっ！　はぁっ、んくうっ！　言われなくても、そうしているっ！　ああ、ジェダルもっと！　もっともっと、私の中を引っ掻き回してくれぇっ！　んくうっ！　んんんんっ！」

cha0075 クロエ

「んふふ、素直なルゥシィさんには、ご褒美を上げましょう。紋様を追加してあげます。一つでこんなに気持ちいいんですから、二つ、いや、三つ刻み込んだら……どうなっちゃうんでしょう」

cha0341 ルゥシィ

「紋様を三つ？　ああっ、それはマズい、絶対にダメだ、狂ってしまうよ、自我が保てなくなる……おチンポが、私の中をえぐる度にイクようになるから……ああっ、早く、早く紋様を刻んでくれっ、ああっ、ふぅん、んんっ！」

cha0076 クロエ

「ふふ、ルゥシィさんったらおねだりしちゃって、可愛すぎです。じゃあ、まずは二つめの紋様です」

cha0342 ルゥシィ

「ああっ、あ、あんっ――っ！　はあああああんんっ！　くはっ、はあああっ、ああああっ！　ま、まるで、これまでとは、別のおチンポのように、感じるっ！　んくうっ！　ううぁああっ！」

cha0077 クロエ

「身体をガクガクと痙攣させて、ふふふっ、いい反応ですよ。ジェダルももっと激しく責めてあげてください」

cha0343 ルゥシィ

「あひっ、ひぃんっ！　激しいっ！　あああっ！　おマンコの奥が突き破られそうなほどっ、くふぅうんっ！　でもこれは……くはっ、くはあっ！　気持ちいいっ、んぐぅっ！」

cha0078 クロエ

「すごいですルゥシィさん！　中出しの為にジェダルを放さないなんて！　んふふ、でも、こんなに感じちゃって大丈夫です？　色んなお露がぶしゃあって出てますよ？」

cha0079 クロエ

「もう一つ紋様を刻み込んだら、耐えきれないかも知れません。ふふっいきますよー」

cha0344 ルゥシィ

「ああああああっ！　ああっ！　ああああっ！　ふぐぅっ！　ぅうあああっ！」

cha0080 クロエ

「さあ、ジェダル、ありったけの精液を、ルゥシィさんの中へ出してあげてください！」

cha0345 ルゥシィ

「おおおっ！　おぅぅう、おっ、おお！　ああああっ！　ああっ！　おおっ、意識がぁあっ……おおおおおおおっ……！」

cha0346 ルゥシィ

「はぁぁぁぁぁ〜〜〜〜……す、ごぃぃ……はひぃぃぃ……」

cha0081 クロエ

「あらあら……今のルゥシィさん、ドスケベでお下品な顔、してますよ……んふふふふ……」

cha0347 ルゥシィ

「はへぇぇぇ……」

cha0348 ルゥシィ

「ふぁ……あふ……朝か……眠い。眠すぎて生活に支障が出るレベルだな……」

cha0349 ルゥシィ

「それもこれも夢のせいだ……なんて内容だ……あんな夢が、私の本心なわけはない……っと、いかんいかん。魔王を倒した賢者がこんな調子では良い笑いものだ」

cha0350 ルゥシィ

「クレメントの様子を聞きながら気持ちを切り替えるとしよう。クレメント。聞こえるかな、どうだい？　進行具合は」

cha0029 クレメント

「ああ、ルゥシィおはよう。今日は少し遅かったな」

cha0351 ルゥシィ

「クレメントばかり頑張らせるわけにも行かないからね。君の帰る場所はしっかり私が守るさ。ふむ、そっちも順調なようで何よりだ。声にハリが戻っているじゃないか」

cha0030 クレメント

「ルゥシィは何でもお見通しのようだ。その通り、魔物の不意打ちは無くなって、ほとんど一本道になってきた」

cha0352 ルゥシィ

「ほう、そうなってくれば、いよいよ終点だ」

cha0031 クレメント

「俺もそんな気はしている、早く魔物の親玉をたたきのめしてやりたいな」

cha0353 ルゥシィ

「うむ……いつになくノッてるじゃないか。なにか良いことでもあったか？」

cha0032 クレメント

「良いこと……？　いや、まあ、そうだな」

cha0033 クレメント

「なんだ……その、早く終わらせれば、その分だけ早くルゥシィに会えると思ったら、気が急いてしまってな」

cha0034 ルゥシィ

「――っ！　あ、ああ」

cha0034 クレメント

「こんなに長く一緒に居ないのは久しぶりだからな、きっと寂しいんだな俺は」

cha0035 ルゥシィ

「うう、藪蛇だったか……恥ずかしい……と、ともかく、最深部は近い。油断せず無事に帰ってきてくれ」

cha0035 クレメント

「ルゥシィも、無理はするなよ」

cha0036 ルゥシィ

「吉報を待っているよ。それじゃ」

cha0037 ルゥシィ

「……私も村での役目を果たすとするか。とはいえ今の所、脅威らしい脅威もないから、村の見回りをするくらいしか無いが、それも大事な役目だ」

//【効果音】コンコンとドアをノックする音

cha0082 クロエ

「ルゥシィさん。今から見回りですか？」

cha0038 ルゥシィ

「洞窟の入り口を封じていても、完全には瘴気を防げていないからな」

cha0083 クロエ

「では私も見回りに同行します」

cha0039 ルゥシィ

「見回りは私一人でも十分だが……」

cha0084 クロエ

「ふふふ、少し前にアリアが新しいお菓子をマーケットに持ってくると言っていたんです。よかったらルゥシィさんもどうです？」

cha0860 ルゥシィ

「それが目当てか」

cha0085 クロエ

「ルゥシィさんと一緒に、というところがポイントですよ」

cha0861 ルゥシィ

「まあそれもいいだろう、一緒に行くか」

//【収録メモ】間

cha0086 クロエ

「今日もマーケットは活気が溢れていますね。この活気を私が消してしまうところだったと思うと、ゾッとします」

cha0862 ルゥシィ

「私が居る限り、そんな結末にさせはしないさ」

cha0014 アリア（村人MOB）「ルゥシィさん！　助けてください……っ！」

cha0863 ルゥシィ

「む……どうした？」

cha0015 アリア（村人MOB）「同僚のジャコブが、この裏路地で瘴気に触れてしまって……私にはどうにも出来ず……お願いです。彼を助けてくださいっ！」

cha0864 ルゥシィ

「それはいけない。すぐに案内してくれ。クロエすまない、また後でな」

cha0087 クロエ

「はいっ！　頑張ってください～」

cha0016 アリア（村人MOB）「こちらです……ああっ、ジャコブっ！　ルゥシィさんが来てくれたから、もう大丈夫よ！」

cha0365 ルゥシィ「ふむ……なるほど。比較的軽度だ。大丈夫、治療をすればすぐに良くなるぞ」

cha0366 ルゥシィ「アリア、このくらいなら君でも治療は可能だ。応急処置が出来るように、やり方を見せておく、しっかり見ておくんだ。ではジャコブ、失礼するよ……」

cha0017 アリア（村人MOB）「ルゥシィさん！？　ど、どうして脱がすんですか？」

cha0367 ルゥシィ「瘴気に触れてしまったときは、これが一番なんだ。片手で竿の根本を握って、シコシコする。同時にぷっくりとした先端を、空いている手で撫で回してやると……ほら見ろ、すぐに大きく固くなる」

cha0368 ルゥシィ「大きくなったら、口に咥えて元気よくしてやるんだ。いくぞ……あむ、んっ……ちゅっ、ちゅぷっ……ん、んっ……ちゅぷ……んん……」

cha0369 ルゥシィ「ぷは……ふむ、大きくなっても剥けきらない包茎チンポだ……こんな時は優しく根本を引っ張って、剥いてあげるんだ……ん、顔を出してきた。蒸れていて匂いが強い……すぅ、はぁ……堪らないな」

cha0370 ルゥシィ「舌先できれいに舐めてやろう……んはぁ……れろ……ぴちゅっ、んっ、れるれる……んん、はぁ……んっ、んっ、んっ……ぷは、ふふ、おチンポがビクビクしている……君たちはこういうのあまりやらないのかい？」

cha0018 アリア（村人MOB）「あ、えっと……その……あまり……ただの、同僚ですし……」

cha0371 ルゥシィ

「そうか？　ジャコブのは敏感でいいおチンポだ。優しくしてあげるのが良いだろう。今度、咥えてみるのがオススメだ……あむ……ん、ちゅぷっ、んっ、んっ……ちゅぱっ、んふ……うまい……はぁ……じゅぷっ、ちゅっ……んっ、んっ……」

cha0372 ルゥシィ

「んっ、ふぅっ、ちゅぷっ、じゅぷっ、くぷぷっ……ん、はぁ……れろ、れろん……おチンポの裏側もしっかり舐めてあげるのだぞ。れろれろ……んんっ、ちゅっ、れるん……ぺろぺろ……んちゅぅ……ちゅぱっ」

cha0019 アリア（村人MOB）「ああ……ジャコブが気持ちよさそうな顔を……ルゥシィさんも、蕩けた顔で……すごい……」

cha0373 ルゥシィ

「これが本物の、フェラチオさ……んぷっ、じゅぷっ……んむっ、んんっ、じゅるっ、んは……手でシコシコしながらすると、さらに気持ちいいんだが……こうやって、口だけでするのも、いいだろう？　ぁむ……んっ、じゅぷぷっ」

cha0374 ルゥシィ

「ちゅぷっ、ちゅるる……あふ……行為に集中しすぎると、歯が当たりそうになるから、注意が必要だ、んんっ……じゅぷっ、じゅぷぷっ、じゅぷんっ！　んはぁっ、我慢汁が濃くなってきた……はむぅ、んっ、んっ、んんんっ！」

cha0375 ルゥシィ

「んふふ、腰が浮いてきたな……んちゅ、ちゅぷっ……じゅるっ、じゅるるっ、ちゅぱっ！　ラストスパートだ、んじゅるっ！　ちゅぷっ！　んんっ、んっ、んっ！　ちゅぷぷっ、れるれる……じゅるるるっ！」

cha0376 ルゥシィ

「んんんんっ！　ん……ごく……ごくん……んふ……ごくん……ずぞっ……れろ、れろ……んん……っはぁ。なかなか勢いのある射精だった……ぺろっ、ちゅぅ……」

cha0020 アリア（村人MOB）「はぁ……はぁ……あ、あの……どう……ですか……？」

cha0377 ルゥシィ

「濃くて量も多いし勢いもある。射精は申し分ないな」

cha0378 ルゥシィ

「あ、ああ、すまない、瘴気の方の話だな……軽減してはいるが、完全に浄化したとは言い難いな。思いの外、多量の瘴気を吸い込んでいたようだ」

cha0379 ルゥシィ

「セックスするしかないな。大丈夫だ。任せておいて」

cha0380 ルゥシィ

「きつく締めてやらないとダメか……んっ、あ、はぁ……んん……行くぞ……んっ、ふっ、んんっ、締めるのも、ふっ、んっ、案外っ、難しいっ、なっ、んんっ！」

cha0381 ルゥシィ

「あんっ、んんっ！　あ、でも、なんとなく……わかって、んっ！　きたっ、んっ、んんっ、ふぅん……これでっ、どうだ。んっ！　ふぅっ！　締め付けたら、いい感じっ、んんっ、あんっ！」

cha0382 ルゥシィ

「んんっ、ほら、締め付けたまま、はぁん、グリグリと腰を動かしてやろう……んふぅ……くぅんっ、まるでおマンコでおチンポを、んはあっ、ぁんっ、捏ね回されているみたいだろう……んんっ！」

cha0383 ルゥシィ

「ほら、もっと奥まで頑張って、背伸びをする感じで……んっ、んっ、んっ、そうだ、んふぁ……もっと、もっとだ、あんっ、んんんっ！　んふぁあっ、くうっ、届いてない、ぞっ、くううんっ……ぁっ！」

cha0384 ルゥシィ

「ああっ！？　んっ、ぅ、ぉお……なんだ、もう出て、しまったのか。ん……おマンコの中に熱いのが、んんっ、広がって……まるで、私の中でおもらしでもしたような……」

cha0385 ルゥシィ

「二回目だというのに、長い射精だな……んっ、んふ……んっ……そんなに私の中が良かったのか？　ぁふ……ふぅ……ああ、穏やかな顔で気を失っている……まったく……私はまだイってないんだぞ？」

cha0386 ルゥシィ

「さて。もう大丈夫だ、アリア。瘴気の影響は完全に取り除けたよ」

cha0387 ルゥシィ

「しかし……もう少し性経験は積んでおいた方がいいだろう、お互いにな。こんなものでは、何かあった時に、男女ともに消化不良で終わってしまいそうだぞ」

cha0021 アリア（村人MOB）「はい……ありがとうございました……あの、私、ちょっとお花を摘んできますので、これで……」

cha0388 ルゥシィ

「む……なるほどな。手伝おうか？」

cha0022 アリア（村人MOB）「大丈夫です！　仕事中ですし！　ちょっとだけですから……」

cha0389 ルゥシィ

「行ってしまった……やれやれ」

cha0088 クロエ

「ルゥシィさん、戻りました。あの、アリアが真っ赤な顔をして走っていきましたが……」

cha0390 ルゥシィ

「アリアは花摘みだそうだ。ジャコブはあそこで、幸せそうに寝ているよ」

cha0089 クロエ

「本当ですね……ふふふ、ルゥシィさん。アリアの所のお菓子、買ってきましたよ。はい、あーん」

cha0391 ルゥシィ

「気が利くな、ありがとう……あーん、もぐもぐ……ん、美味しい」

cha0090 クロエ

「精液の匂いが混ざると美味しいですよね、お菓子って」

cha0392 ルゥシィ

「んぐっ、けほっ、急に何を言うんだ。まあ否定はしないが」

cha0091 クロエ

「ふふ、もっと食べます？」

cha0393 ルゥシィ

「いただこうか、うむ、うまい。うまいよ、本当に」

cha0394 ルゥシィ ――――――「んぐ……んぐ……ごくりっ、はぁ……ふぅ……喉の奥まで、勢いよく出たな……」――

cha0395 ルゥシィ

「んぐ……んぐ……ごくりっ、はぁ……ふぅ……喉の奥まで……ちゅっ、ちゅむっ……君の大きなチンポに似つかわしい、いい射精だったぞ。ん、ぺろ……ふむ、体の調子は良さそうだな。これに懲りたら瘴気に触れないようにな。いきなさい」

cha0092 クロエ

「お疲れ様でした。今の人で最後ですよ」

cha0396 ルゥシィ

「ふぅ……あれだけしっかりと洞窟の入口を塞いでいるのに、連日瘴気に当てられた人が助けを求めてくるとは……」

cha0093 クロエ

「努力の結晶ですよ。フェラチオが凄まじくて、一瞬でオチンポから搾精されてしまうって、村でも噂になってます。今じゃ瘴気に当てられたらすぐにルゥシィさんにぬいてもらうっていうのが、村の一般常識になってるレベルです」

cha0397 ルゥシィ

「まったく、度しがたいな。サキュバスの呪いが生み出す瘴気というものは……」

cha0398 ルゥシィ

「まあクレメントが最深部に到達したらしいから、暫くの辛抱なんだが……中々に辛いものがある……人を瘴気から開放する度に、私に瘴気が溜まってしまうし……」

cha0094 クロエ

「そのために私が居るじゃないですか。ルゥシィさんの苦しみは、私が……」

cha0399 ルゥシィ

「クロエ、はしたないぞ。服の上からでも分かるような膨らみを見せつけるなんて」

cha0095 クロエ

「ふふっ、ルゥシィさんをお誘いしてるんですよ」

cha0400 ルゥシィ

「クロエがしたいだけじゃないのか？　サキュバスの呪いから開放されてもソレが残っているのが良い証拠だ」

cha0096 クロエ

「えへへ、それも間違いじゃないです。でもルゥシィさんも助かってるじゃないですか。おあいこですよ、おあいこ」

cha0401 ルゥシィ

「全く、しょうがない……じゃあ、今日も頼むよ」

cha0097 クロエ

「はい、お任せください。んふふ、やっぱりルゥシィさんいい匂い……すんすん……薄っすらと汗をかいてルゥシィさんの匂いが香り立っています……」

cha0402 ルゥシィ

「こ、こら、匂いをかぐのはダメだと……んっ、あ、くすぐったいじゃないか……やめ、ぁんっ」

cha0098 クロエ

「すんすん……ふふっ、やっぱりルゥシィさん可愛いです。それだけでもう私ドキドキしてしまって……ぁふぅん……」

cha0403 ルゥシィ

「そういうクロエは、先っぽが服から顔を出しているようだが」

cha0099 クロエ

「ぁん、見つかっちゃいました。ほら、私のふたなりチンポ、もうこんなになってるんです……」

cha0404 ルゥシィ

「先走り汁が、糸を引いている……はぁ、はぁ……」

cha0100 クロエ

「んんっ、そんな物欲しそうに見つめないでください……ゾクゾクしちゃうじゃないですか……ね、ルゥシィさん……。これを、どうして欲しいんですか……？」

cha0405 ルゥシィ

「ん……その……中に……ええと……何ていうか……」

cha0101 クロエ

「うふふ、まだルゥシィさんにおねだりは難しいですかね……ごめんなさい」

cha0406 ルゥシィ

「こ、言葉にするのが……恥ずかしいんだ……こればっかりはどうにも……。ああ……クロエ……、体が疼いてしまう……ぁふぅ……んふぁ……」

cha0102 クロエ

「そうでした。早くそれを取り除きましょう……。ほら、私のふたなりチンポが入る場所、ルゥシィさんが自分で開いて、見せてください」

cha0407 ルゥシィ

「んっ、ああ……、ここ……、ここだ。クロエ……」

cha0103 クロエ

「そんなに大きく足を開いて……おまんこは、エッチな露が糸を引いて、ヒクヒクと私を誘っています……はぁ、我慢出来ないです、入れますね……んっ、はぁぁあ……あぁ……」

cha0408 ルゥシィ

「あ、ああ、あああ、入って、ふぁああ……入ってきた……っ、ぁんんっ、んくぅぅ……」

cha0104 クロエ

「くぅんっ、んんっ……ルゥシィさんの中……ふぁあ、ねっとりと絡みついて……あんんっ、気持ちいいです……ぁあん……あは、勝手に腰が動いちゃいます……んんっ」

cha0409 ルゥシィ

「あ、ああ、んふぅ……もっと動いてくれないと、困るぞ……んっ、んぅ……んん」

cha0105 クロエ

「あああもぅっ、ルゥシィさん可愛すぎですっ！　ドキドキしますっ！　んんっ！　くぅんっ！」

cha0410 ルゥシィ

「あああああっ！　急にっ！　あああっ！　激しくっ、くぅううんっ！　はぁああんっ！　中がかき回されてっ、ジュブジュブ音を立てたら、あんんっ！　んくううっ、はずかしいっ！　ああっ！」

cha0106 クロエ

「そんなのっ、知りませんっ！　あんっ！　あんっ！　ルゥシィさんが私を、くぅんっ！　んんんっ！　させるんじゃないですかっ！　ああっ！　もぉ！　もぉっ！」

cha0107 クロエ

「私がルゥシィさんの助けになりたいのにっ、あんっ！　これじゃ、私がルゥシィさんを欲しがってばかりじゃないですかっ！　あっ、あっ、私はっ、くぅんっ！　ルゥシィさんのおマンコ大好きですよおっ！」

cha0108 クロエ

「あんっ、んんっ、んっ、んっ！　ぁふ、だからっ！　今日こそ、んくぅっ、今日こそ言ってもらいますからねっ、あっ、んんっ！　クレメントさんと私、くぅっ、どっちのエッチが気持ちいいか、はぁんっ、言ってくださいっ！」

cha0411 ルゥシィ

「んくぅうっ、あんっ！　あんっ！　くぅっ、言いたく、ないっあああっ！　くぅうんっ！　あぁんっ！」

cha0109 クロエ

「そんな……じゃあ、これ以上動いてあげませんっ、はぁ、はぁ、はぁ……」

cha0412 ルゥシィ

「ああ、ダメだ……それは困る……んん、クロエ、お願いだ、意地悪をしないでくれ……ぁんん……」

cha0110 クロエ

「私も辛いんですっ、そんなにふたなりチンポ締め付けてもダメです。んくうう……クレメントさんと私、どっちですか？」

cha0413 ルゥシィ

「はあ……ああん……切ない……切なくて、どうにかなってしまいそうだ……ああ……」

cha0111 クロエ

「おマンコぎゅぅって締め付けて、物欲しそうに、ちょっぴり潮まで吹いてる……身体は正直ですけど、私はルゥシィさんの口から、聞きたいんです……っ」

cha0414 ルゥシィ

「あ、ああ……分かった。言うから……その……ええと……クロエのがいい……」

cha0112 クロエ

「え？　全然聞こえませんっ」

cha0415 ルゥシィ

「クロエの方が気持ちいいっ！　早く動いてくれ、気が狂いそうだ！」

cha0113 クロエ

「あはっ！　よく言ってくれました！　うふふ、ルゥシィさんのお気に入りは、私のふたなりチンポなんですね！　ああっ！　何という幸せ！　ご褒美に、一杯ルゥシィさんのおマンコをかき回してあげますね！　それっ！」

cha0416 ルゥシィ

「あはああっ！　来たあっ！　クロエのふたなりおチンポ気持ちいいっ！　それがないと、私はもう……あんっ、あんっ、あんんっ！　ふああっ、んんんっ！　んくうっ！」

cha0114 クロエ

「んんっ！　んっ、んっ、ふふ、ルゥシィさんったら、んくうっ、素直になったら急に甘えちゃって、ぁくう……んんっ、可愛いんですから」

cha0115 クロエ

「大丈夫ですよっ、んんっ、これからもずっとルゥシィさんの性欲は、はぁん、ああっ、私のふたなりチンポが満たしますからっ！　くぅっ、んんっ、その為のふたなりチンポですからっ、もっと感じてください……あああっ！」

cha0417 ルゥシィ

「ああああっ、気持ちいいっ！　もっと、もっと奥までっ！　くぅうんっ、んんんんっ！　んっ！　んっ！　ああっ！　あんっ！　あああんっ！」

cha0116 クロエ

「くぅうっ、ルゥシィさん、そんなにっ、はぁあんっ！　そんなに締め付けたら、ああっ、私っ！　あんっ！　私ぃっ！　あああんっ！　んくぅうんんっ！」

cha0418 ルゥシィ

「もっと早く、もっと奥までっ！　あんっ！　あんっ！　くぅあああっ、ダメだっ、もう……もうっ！　イク、イクぅうっ！　あああああっ！　クロエ、中にぃっ！」

cha0117 クロエ

「はああんっ！　ああっ、ルゥシィさんイクんですね。私も……イキますよっ、もうっ、ああっ！　私もっ、ああっ、ぅぅっ、ああっ、あっ、あああっ、あんんっ！　あああああっ！　イクぅうっ！」

cha0419 ルゥシィ

「ふぁあああっ！　ああっ、んきゅうううんっ！　いっぱい！　エッチ汁がいっぱいいい！　ああっ、あ、あ、あっ、あああああああっ！」

cha0118 クロエ

「はぁっ、はぁっ、んんっ！　くぅうっ……しぼり、とられ……るうっ……あああっ……あふ……くうん……」

cha0420 ルゥシィ

「ああ……ふたなりチンポ……気持ちいい……もう……んっ、手放したりなんか……しないからな……」

cha0119 クロエ

「ふふっ、すっかりお気に入りなんですから……うん、そうですね……もうそろそろ、いいでしょうか……」

cha0120 クロエ

「ルゥシィさん……そろそろ、目を覚ましましょうか」

cha0121 クロエ

「淫蕩にばかり耽って頭が溶けちゃってるルゥシィさん。目を覚ましてください」

cha0421 ルゥシィ

「目を覚ます……？　なにを……」

cha0122 クロエ

「あの日……私やジェダルを救うための作戦、立てたんですよね……サラさんに、打ち明けたって聞きましたよ……思い出せますか？」

cha0422 ルゥシィ

「ああ、それは……サラに……二人を救う術を話して……紋様の封印について相談をして……おチンポをおマンコで射精させて、弱くした所に、封印を施して……」

cha0423 ルゥシィ

「いや……いや違う……そんな話じゃなかった……私は……私は、もっと別の、違う話を……あぁ！」

// ▼【0011 真実】

// 【収録メモ】トラック10のコピペ　ここから

cha0424 ルゥシィ

「プランはとても単純だ。クロエやジェダル、そして私。それぞれの身体に刻み込まれている呪いの紋様が、心を狂わせている元凶だ。これらをすべて私が封印、破壊する」

cha0425 ルゥシィ

「封印と破壊の術は、既に思いついている。後は実行するだけだ……しかし、クロエとジェダルを二人同時に相手取るのは難しい」

cha0426 ルゥシィ

「そこでサラ、君の出番だ。何とかして二人を引き離せるタイミングを作って欲しい。出来るだろうか……？」

cha0052 サラ

「……準備が必要そうですね。ですが、お任せください」

cha0427 ルゥシィ

「ありがとう。私も全力を尽くそう」

cha0428 ルゥシィ

「よし……いいようにされるのは、ここまでだ。反撃の狼煙をあげるとしようか」

// 【収録メモ】トラック10のコピペ　ここまで

cha0053 サラ

「はい、私の望む結末のために、手を尽くしますわ。ではルゥシィさん、このオーブをよくご覧になってください」

cha0429 ルゥシィ

「何……？　あ……」

cha0054 サラ

「そうですわ。しっかりと見てください。とても美しいオーブですわね。見れば見るほど吸い込まれるような……」

cha0430 ルゥシィ

「う……うううう……それは……まさか……」

cha0055 サラ

「驚きましたわ……このオーブを前に自我を保っておられるなんて……さすがは魔王を討伐した勇者のお仲間」

cha0056 サラ

「でしたら、ルゥシィさんには全てを知って頂きますわ。魔王の側近であり、誰よりも魔王を愛したサキュバスの事を……」

cha0057 サラ

「彼女は愛する魔王の死をうけて、復讐を誓ったのですわ……快楽の呪いで人間達を塗りつぶす、そんな復讐を。その復讐を果たすために自らの命を糧に、オーブと瘴気を放つ結晶を生み出し、その時を待っていたのですわ」

cha0058 サラ

「偶然、村と繋がった洞窟の奥に導かれた私は、オーブからその事実を知り……彼女に協力しようと思いましたの」

cha0431 ルゥシィ

「その、オーブは……洞窟の、最深部に……クレメントが、向かっている、先に、あると……」

cha0059 サラ

「偽りの話ですわ。実は私が、随分前に持ち帰っていましたの。依頼を出しておびき寄せられた、冒険者や商人たちを手駒にするために……」

cha0432 ルゥシィ

「まさか、そんな……では……私達は、初めから……」

cha0060 サラ

「さあ、これが全てですわ。……でも今は、忘れて頂きますわね。オーブの力で頭の中を……少しだけ……」

cha0061 サラ

「ああ、そうですわ……ルゥシィさんの仰っていた封印の手段、よく出来ていましたわ。でも手段と記憶を改ざんした状態で、やって頂きますわね……ふふふ」

cha0433 ルゥシィ

「サラ……やめ……やめろ……やめろおおおっ！」

cha0062 サラ

「おやすみなさいませ。起きたら、幸せの始まりですわ」

//【収録メモ】間

cha0434 ルゥシィ

「おもい……だした。サラが……」

cha0123 クロエ

「そもそも快楽でサキュバスの呪いに対抗するなんて、おかしいと思いませんか？　悪化させるに決まっているじゃないですか」

cha0435 ルゥシィ

「なんて、卑劣な……人を騙し、貶めるような真似を……許すわけには行かない……」

cha0124 クロエ

「ルゥシィさんは、村人や冒険者の皆さんに、瘴気の対策と称して、散々快楽を植え付け堕落させていったんですけどね……呪いの紋様を封印するどころか、村中に瘴気を振りまいていった」

cha0125 クロエ

「そんな悪行を重ねる一方で、自分は、ジェダルのチンポと、私のふたなりチンポでヨガり狂っていた」

cha0126 クロエ

「見てください村の様子を。村中の人間が恥ずかしげもなく、家の中も外も関係なく性器を露わにして快楽を貪っていますよ。ルゥシィさんが教えたとおりに」

cha0436 ルゥシィ

「違う、すべては……く、うううう！」

cha0127 クロエ

「反論出来ないですよね。そう、ルゥシィさんは聡い人です。だから好きです。自分の責任だと強く感じてしまう……お前のせいだと、呪いのせいだと、人のせいにしてしまえばいいのに」

cha0128 クロエ

「でも、そんな高潔なルゥシィさんが、オチンポを下品にしゃぶって、腰を振り回している姿、とっても可愛かったですよ」

cha0437 ルゥシィ

「あ、ああっ……あああっ！　私はっ！　私はあああっ！」

cha0129 クロエ

「サラさんに操られていたとしても……少なくとも私はルゥシィさん、あなたを慕い、尊敬しています。今でも、その気持ちは変わりません。大好きなんです」

cha0130 クロエ

「だから、最後は、最高のひとときで終わらせてあげますね……さようならルゥシィさん。次に会うのは新たなルゥシィさんですね」

cha0438 ルゥシィ

「あ……ああ……や……め、ろ……」

cha0131 クロエ

「ほら見てください、ルゥシィさんの大好きな、私のふたなりチンポですよ。いっぱいルゥシィさんに味わってもらいますからね」

cha0439 ルゥシィ

「くぅ……そんなものに、んふぅ……流されたり、しない……っ、ふぁあ……」

cha0132 クロエ

「ああっ、なんて健気なんでしょう。期待でおマンコをヒクつかせながらも強がる心意気。はぁん、快楽で塗りつぶしてあげたいです……」

cha0440 ルゥシィ

「くっ！　クレメントが、クレメントさえ戻って来てくれれば……ああっ！　こんな事、許しはしない！」

cha0133 クロエ

「ルゥシィさんは本当にすごい人です。まだ立ち上がろうとするんですから。それでこそ私が憧れる人です……でも、クレメントさんは帰ってきませんよ、しばらくは」

cha0441 ルゥシィ

「は……？」

cha0134 クロエ

「ふふ、クレメントさんは洞窟に入ったその日に、サキュバスの呪いで性欲の虜になりました。ルゥシィさんと同じように、下腹部と……オチンポに紋様を刻み込みましたから」

cha0135 クロエ

「クレメントさんはもう、我慢することなく楽しい日々を過ごしています。私ともエッチした仲なんですよ、数え切れないくらいの冒険者を抱いています……洞窟の中は、そういう場所にしましたからね、ふふふ……」

cha0442 ルゥシィ

「嘘だ……クレメント……私は……ぁ、んん……ああ、私は……」

cha0136 クロエ

「もういいですよ、あの人の事は……女冒険者という娼婦達と日夜絡んでいるクレメントさんなんてもう忘れて、ちゃんと私の、ふたなりチンポ、見てくれなくちゃヤです……んっ！　ふぁぁあっ！」

cha0443 ルゥシィ

「あああああっ！　はああんっ！　急に、ああっ！　奥まで入って、きたあっ！　んくうううっ！」

cha0137 クロエ

「はああ、やっと、私を見てくれました……もう、ルゥシィさんったら……んふぅ、奥まで突き入れられて軽くイクくらいなら、ちゃんと私のふたなりチンポを感じてくださいよ……」

cha0444 ルゥシィ

「あふっ、ああっ、奥が……くふぅ……ビリビリ……しびれ……あんんっ」

cha0138 クロエ

「背中を反らせてピクピクして……んふ、私を誘ってるんですか？　いいですよ？　一番奥をゴツゴツしてあげますからね！　ほらっ！　奥がっ！　良いんですよねっ！　んっ！　ふっ！　んんっ！」

cha0445 ルゥシィ

「んん、ちが……んぁっ、ああっ、そんなことっ、ぁんっ、あふぅ……んんんっ！」

cha0139 クロエ

「気持ちよくないです？　んっ、んっ！　んっ！　こんなに気持ちよさそうに喘いでるのにですか？　ぁふ、ふぅっ、んんっ、なるほど、ここじゃないんですね。じゃあ……ここっ！」

cha0446 ルゥシィ

「んくぅぅっ！　あんんっ！　んんっ！」

cha0140 クロエ

「ふふ、ここ、良さそうですね。良いですよ。もっともっとシてあげますからね！　んっ、んっ！」

cha0447 ルゥシィ

「ああっ！　これっ、これが……あふぅっ、んくぅぅっ、んんっ！　これが気持ち、いいぃんんんっ！」

cha0141 クロエ

「くふふっ、気持ちいいですか？　ルゥシィさんは、ジェダルのチンポより、クレメントさんのチンポより、私のふたなりチンポが好きなんですよね？」

cha0448 ルゥシィ

「あひっ、ひぃんっ！　ああっ、気持ちいいっ！　クロエの、ふたなりチンポが、ああっ！　きもちいいっ！」

cha0142 クロエ

「あはっ！　サキュバスの呪いで頭が溶けちゃってる時じゃなくても、ルゥシィさんは私のふたなりチンポを好きって言ってくれました！　ほら、ジェダル。聞きましたか？」

cha0449 ルゥシィ

「ふぁあっ、ジェ、ジェダル？　あっ、くううんっ！　なんで、ここに、ひぃんっ！　んん、くうう……」

cha0143 クロエ

「ジェダルと勝負をしていたんですよ。どっちがルゥシィさんに気に入ってもらえるかの。ふふっ、もちろん私の勝ちでした！　敗者のジェダルはルゥシィさんの口で慰めてもらってください」

cha0450 ルゥシィ

「そんなっ、うぶっ！　んんっ！　ふぐ、むぐぐっ！　くるひぃっ、んぐぐっ……ぷはっ、けほっ、むぐぐ……」

cha0144 クロエ

「私も激しく行きますからね。んっ、くうっ、ふっ、んんっ、ぁんっ、ふぁあっ！　んんんっ！」

cha0451 ルゥシィ

「ああっ、おぶぅっ！　んぐぐっ！　んはああっ！　あんっ！　あんっ！　あんんぐっ、んぶっ！」

cha0145 クロエ

「んふぅうっ！　ああっ、ジェダルのチンポ咥えたら、急におマンコが濡れて、しかもさらに締め付けて……ぐぬぬ……ジェダルには負けてられないです！　んんっ、んふぅ、ぁんんっ！　んっ！　んっ！」

cha0452 ルゥシィ

「あああんんっ！　んんっ！　んぶぅっ！、んぷっ！　んんっ！　……んぐっ、んじゅぷっ！　んくうっ！　んんっ！　ちょっと……んぐっ、待ってっ、んんっ！　ぐぷっ、んぷぷっ！」

cha0453 ルゥシィ

「んんっ、んぷっ！　んぐ、じゅぷっ、じゅぽぽっ、はぐぅっ、そんなに突き入れ、ふぐうっ！　突き入れたらっ……んぷっ、ぐぷぷっ！　んぶぅっ、はぁ、じゅぶっ、じゅぶっ！」

cha0146 クロエ

「ルゥシィさんのフェラ、凄いですよね……あんっ、おマンコもふたなりチンポ、んんっ、あんっ、あんっ、ぎゅんぎゅん締め付けてます……ああっ、あんっ、ぁぁぁぁ！」

cha0454 ルゥシィ

「んんぐぅっ！　んんっ！　んぐ、ぅうううん！　ぁんっ、んっ！」

cha0147 クロエ

「んんっ！　ジェダル早過ぎっ……でもお口に射精されて、おマンコぎゅうぎゅう、すご、い……ですっ！　ああんっ、あんっ、んんっ！」

cha0455 ルゥシィ

「けほっ、んぐぅ……はぁっ、はぁっ、はんっ、んんっ！　もう、我慢、でき、はぁあっ、ないいいっ！　んくうううっ！」

cha0148 クロエ

「あんっ、あんっ！　ああっ、ルゥシィさんイキますか？　んっ、んっ！　もっと激しく、んくうっ、イキますよ？　はぁんっ、ああっ、あんっ、あんっ！」

cha0456 ルゥシィ

「ふぁあっ、これ以上、ああっ！　激しく、くうっ、んんっ！　激しくされたらっ、んはぁっ！　ああっ、イクっ、ああっ！　イクううっ！」

cha0457 ルゥシィ

「くううんっ！　あああああっ！　またイクっ！　イクっっ！　あんんっ！　んんんんんんっ！　クロエっ、来てっ！　おマンコに、エッチ汁っ！　早くぅっ！　ああああああああっ！」

cha0149 クロエ

「ああっ！　ルゥシィさんがイッてるっ、あんっ！　ルゥシィさんのイキ顔可愛いっ、んふぅ、ああ、もっとトロけた顔、あんんっ！　見せてくださいっ。ああああっ！　ふたなりチンポでトロ顔のルゥシィさん……ああっ！」

cha0150 クロエ

「んんっ！　イキますっ！　ああっ！　ああああっ！　イクイクイクっ！」

cha0458 ルゥシィ

「ひぐぅぅぅぅぅぅぅぅ〜〜〜〜〜〜〜！！」

cha0459 ルゥシィ

「あはぁ……ああっ、ふたなりチンポがビクビクして、あふ……、熱いエッチ汁が……いっぱい……はふ……ふぅん……んっ、ふあ……」

cha0151 クロエ

「はぁっ、はぁっ、はぁっ……んくうっ、これで、最後の仕上げ……です、んはあ……ふぁあ……。今のルゥシィさんなら、受け止められるはず……」

cha0152 クロエ

「サキュバスの命である、オーブを、ルゥシィさんのおマンコで……溶かしてください！」

cha0460 ルゥシィ

「んんっ、くぅうん……あああああああああっ！　あああああああああああっ！　おマンコがあっ！　子宮が熱いいいっ！　あああああああっ！」

cha0153 クロエ

「ああ、ルゥシィさんがサキュバスの魔力に包まれて……」

cha0461 ルゥシィ

「ああっっ……あっ……ぁ――」

cha0154 クロエ

「サキュバスの……彼女の命と願いを、受け止めてあげてください……私の憧れの、ルゥシィさんなら……できます……」

cha0462 ルゥシィ

「ふー……ふー……ふー……ふー……ふー……」

cha0463 ルゥシィ

「んんーっ！　はぁっ、よく晴れたな」

cha0063 サラ

「ええ、昨晩からの雨が上がってよかったですわ。村がこんなに清々しい空気に包まれているのはいつぶりでしょうか。これもルゥシィさんのお陰ですわ」

cha0464 ルゥシィ

「私だけじゃない、みんなが頑張ってくれた結果だ。でも問題が解決して冒険者たちが居なくなると……少し寂しい風景になったな」

cha0064 サラ

「これが以前と変わらない村の姿ではありますが……確かに、寂しいですわね。でもお二人の功績を称える村の新たな名物を作りましたので、これからいろんな方が訪れるようになるはずですわ」

cha0465 ルゥシィ

「う、それはもしや、私達を模したものではないだろうな？」

cha0065 サラ

「ふふ、違いますよ。この村を離れてもこの村のことを思い出してもらえるような、そんな素敵なお守りですわ。アリアが届けてくれる手はずなのですが……あ、来ましたわ」

cha0023 アリア（村人MOB）「みなさんお待たせしました。これが新しい村の名物のお守りです」

cha0466 ルゥシィ

「どれどれ……、なるほどこれは美しい」

cha0155 クロエ

「まるであのオーブのような色、とても綺麗です。わ、私も頂いてもいいですか？　形がすごく立派で、おチンポみたいです」

cha0467 ルゥシィ

「こらクロエ。そういう言葉は慎むように」

cha0156 クロエ

「すみません、えへへ。ベッドの中だけにします」

cha0468 ルゥシィ

「よろしい。しかし、本当にいいモノだな。ありがたく頂いていこう」

cha0066 サラ

「是非お持ちください。既に村を離れてしまった皆さんにもお渡ししている物なんですの」

cha0469 ルゥシィ

「大切にするよ。さて、名残惜しいがそろそろ出発しようか」

cha0157 クロエ

「はい。改めまして……不束者ですが、よろしくおねがいしますね」

cha0470 ルゥシィ

「せっかく知り合ったんだ。旅は道連れ世は情け、同じ目的に向かって一緒に歩むのも悪くはないだろう……この村みたいに、性が解放された場所を増やして、世界をより良いものにしていかないとな」

cha0067 サラ

「まあ！　それは素敵ですわ！　この村のお守りも、その一助になれば幸いですわね」

cha0471 ルゥシィ

「それから、クレメントをよろしく頼むぞ。洞窟に安置したオーブの守護者としてはこの上ないが、やや突っ走る節があるからな……そうだな、寂しくなったら相手をしてやるのもいいだろう」

cha0068 サラ

「はい。そうですわね」

cha0472 ルゥシィ

「ふふっ、ではサラ。また近くに来た時には、是非寄らせてもらうよ」

//【収録メモ】間

cha0158 クロエ

「さて……まずどこへ向かいますか？」

cha0473 ルゥシィ

「そうだなぁ……人々への影響力、それから昔のよしみもある。勇者の元を訪ねようか。彼には快楽と背徳に満ちた、幸せな世界への足がかりとなってもらおう」

cha0159 クロエ

「勇者さんに会うのは初めてなので、ちょっと緊張しますね……」

cha0474 ルゥシィ

「根が真っすぐで良いやつだよ。あの正しさの権化を堕とすか。今から楽しみだな……さあ世界を変革する旅に出ようか！」